

## 7. 水源地域動態

## 7.1 評価の進め方

### 7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は、大きく2つの観点から行った。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理開始以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理した。この結果に基づき、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等について評価した。

もう一つの観点として、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行った。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行った。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討した。

### 7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの観点により評価を行った。評価のフローを図7.1-1に示す。

#### (1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口・産業等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握した。

#### (2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の関わりを把握した。

また、九頭竜ダム周辺施設の利用状況・地域交流・各種イベントの内容・参加人数等を整理するとともに、これまでダムに訪れた人や地元住民から寄せられた意見・要望等から九頭竜ダムに対する意識を把握した。これらのとりまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握した。

#### (3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、地域におけるダムの位置づけについて考察を行った。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年を含むこれまでのダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価した。

#### (4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理した。また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行った。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めた。

(5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理した。

また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行った。

(6) まとめ

以上のとりまとめ結果から、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理した。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめた。

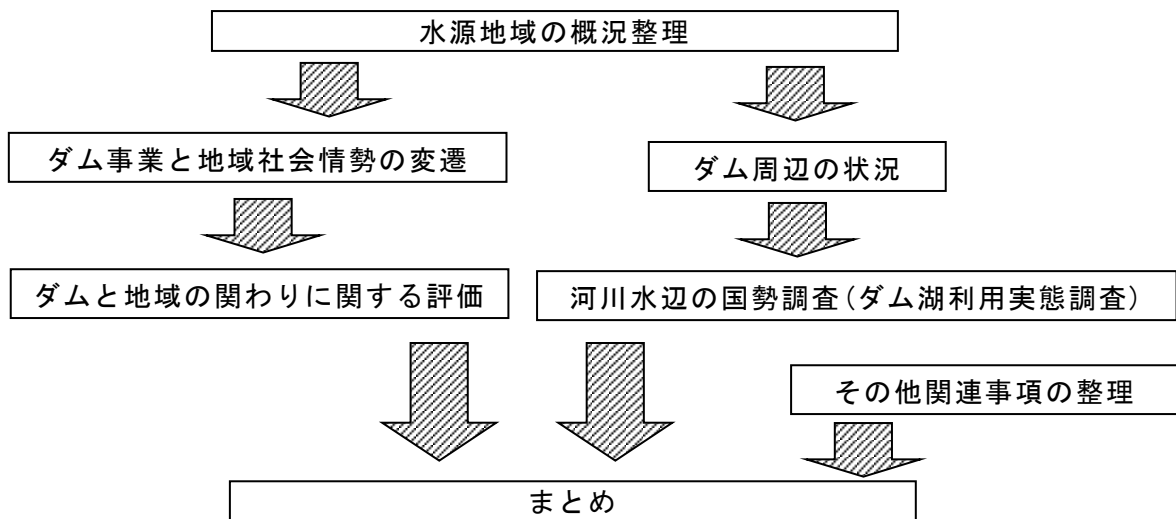


図 7.1-1 評価フロー

7.1.3 必要資料（参考資料）の収集・整理

ダム流域社会情勢や地域との関わり、周辺整備の状況等、評価に必要な資料について収集し、リストを作成する。収集した資料は、「7.8 文献リストの作成」において整理する。

## 7.2 水源地域の概況

### 7.2.1 水源地域の概要

#### (1) 水源地域の位置

九頭竜川流域は、福井県嶺北地方の7市4町(大野市、福井市、勝山市、あわら市、坂井市、越前市、鯖江市、越前町、南越前町、永平寺町、池田町)を中心に、岐阜県郡上市(石徹白地区)を含め2県の8市4町にまたがっている。

九頭竜川の流域では、古代からの人々の生活の跡が様々な地区で見られ、九頭竜川本川、日野川、足羽川の三大河川がもたらす恵み多い自然の中で、大和や京都の影響を受けながら地域の風土に根ざした文化を育み、歴史を刻んできた姿を数多い遺跡や古墳、文化財などから、当時の生活の様子を窺い知ることができる。

近代になってからは、福井平野を中心に武生盆地や大野盆地などで市街地が拡大し、流域西側に位置する福井市、鯖江市、越前市等において流域内の商工業・サービス業の中核を担ってきた。農業は肥沃な沖積平野が広がる福井平野や武生盆地を中心に流域東側に位置する山間部の市町一帯で展開されてきたが、近年は農業就業人口の減少などによって衰退傾向にある。また、少子化などにより、現在では九頭竜川流域の全体で人口の減少傾向がみられる。

大野市域の約87%を占める森林がもたらす「水」は、名水百選「御清水<sup>おしよづ</sup>」に代表されるように、大野市の大きな魅力となっている。清らかで豊かな水は、農業や地域の食文化を育むとともに、地場産業の繊維工業の振興にも大きな役割を果たしてきた。一方、市街地は400年以上も前に大野城の城下町としてつくられ、碁盤の目の町割りが城下町の風情を色濃く残し、「北陸の小京都」とも呼ばれており、歴史と文化が豊かな空間となっている。今日まで脈々と受け継がれてきた幕末の大野藩に代表される進取の精神や、シンボルの亀山、越前大野城、寺町等は市民の誇りである。

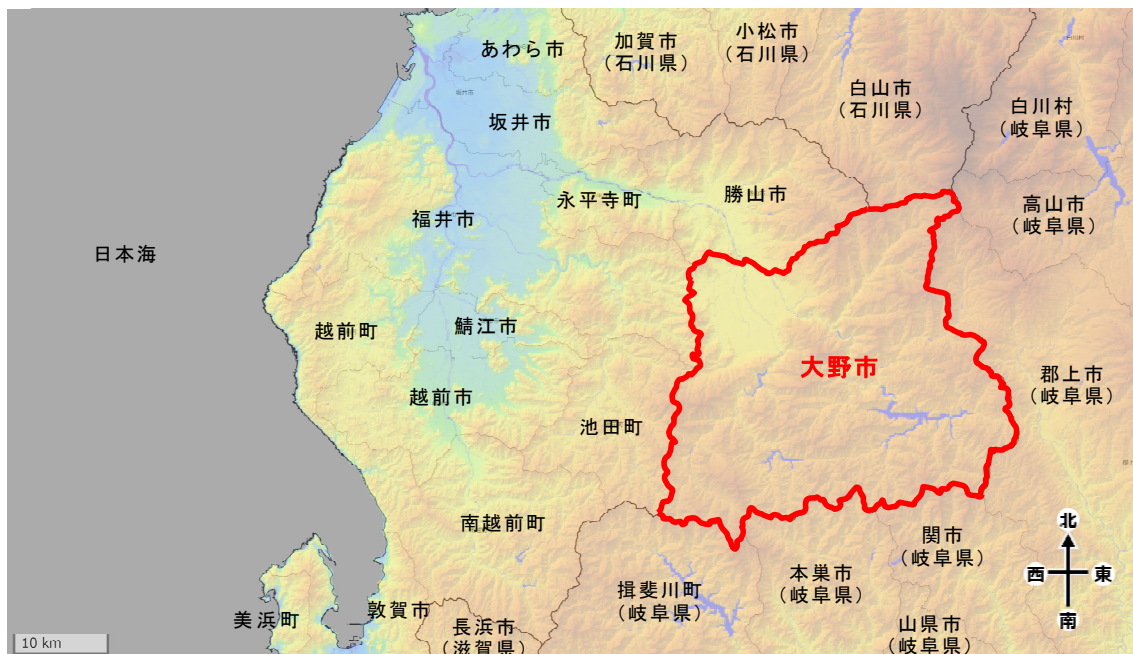


図 7.2-1 水源地域の<sup>大野市</sup>概略位置図

【出典：国土地理院 地理院地図】

(2) 自然公園等

九頭竜ダム近傍の自然公園等の指定状況を下図に示す。

九頭竜ダム近傍は、奥越高原県立自然公園に指定されている。

奥越高原県立自然公園は、勝山市、大野市の2市にまたがり、白山山系の赤兎山、大長山、取立山、法恩寺山、大舟山などの1,500m前後の山々と「日本百名山」である荒島岳などを中心とする山岳公園である。

これらの山々を切り開くように入り込む九頭竜川とその支流の石徹白川、真名川などの渓谷・峡谷美、九頭竜湖や麻那姫湖などのダム湖とが調和のとれた自然環境を呈している。

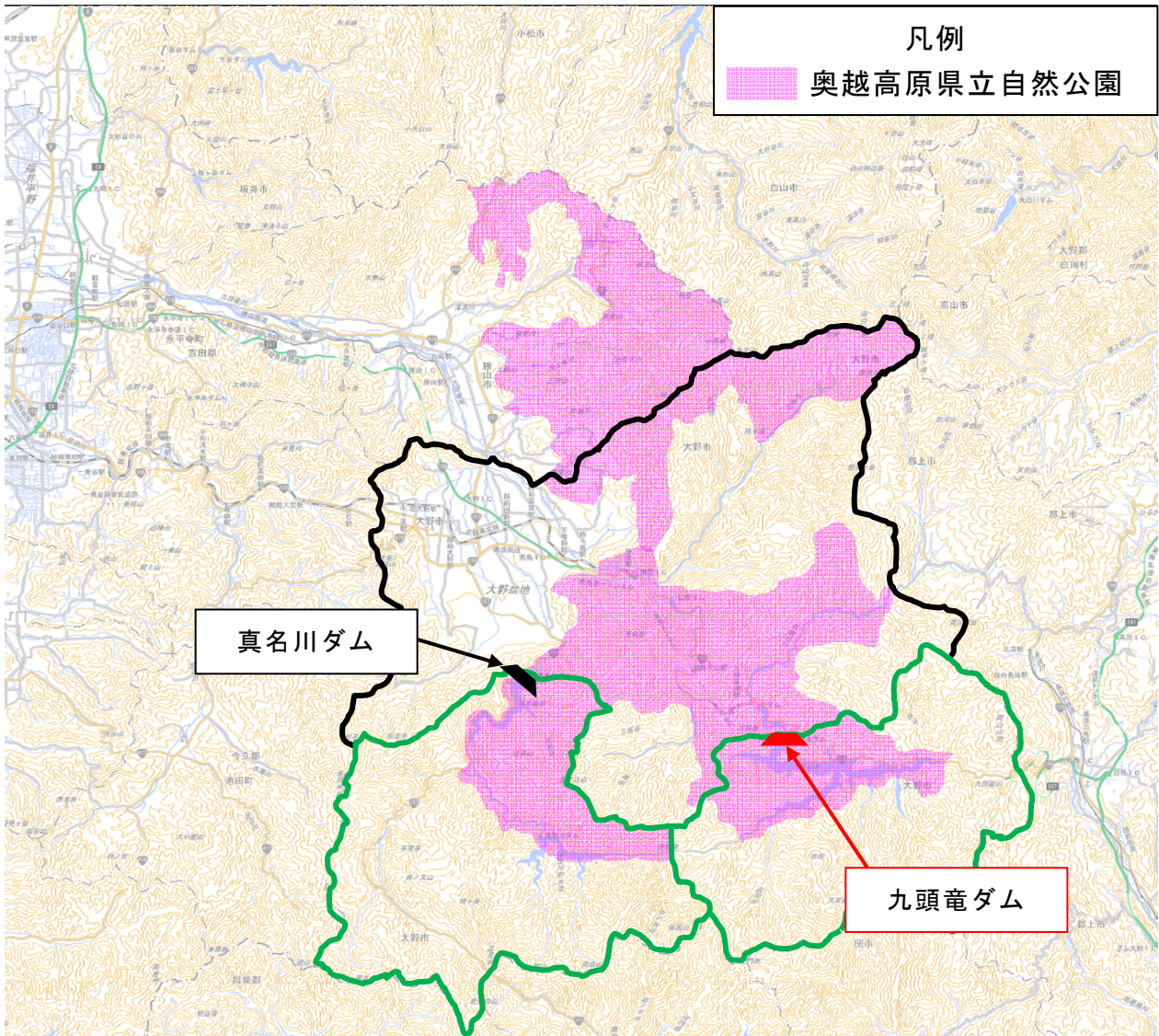


図 7.2-2 九頭竜ダム周辺の自然公園

【出典：福井県 HP  
地理院地図】

(3) 水源地域の人口・世帯数の推移

九頭竜ダムの水源地域である大野市和泉地区(旧和泉村)における人口及び世帯数は、昭和40年～昭和45年にかけてダム建設に伴う移転のため大きく減少した。移転世帯の移転先は約80%が岐阜県や愛知県であり、福井県内は約12%、うち大野市は約8%に過ぎなかった。

その後、産業の衰退(昭和62(1987)年の中竜鉱山閉鎖や林業の不振等)等に伴い、令和2年には若干の人口及び世帯数の増加が見られるが、中部縦貫自動車道の建設工事に伴う一時的な流入と想定され、人口は減少傾向にある。

表 7.2-1 大野市和泉地区(旧和泉村)の人口・世帯数の推移

旧和泉村	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H5	H12	H17	H22	H27	R2
人口(人)	5,266	5,723	2,453	1,879	1,478	1,192	846	824	752	669	541	471	591
5年間の増減率	—	—	-57.1%	-23.4%	-21.3%	-19.4%	-29.0%	-2.6%	-8.7%	-11.0%	-19.1%	-12.9%	25.5%
世帯数(世帯)	1,116	1,147	690	569	540	440	295	295	284	253	226	217	248

【出典：国勢調査 昭和35年～令和2年】

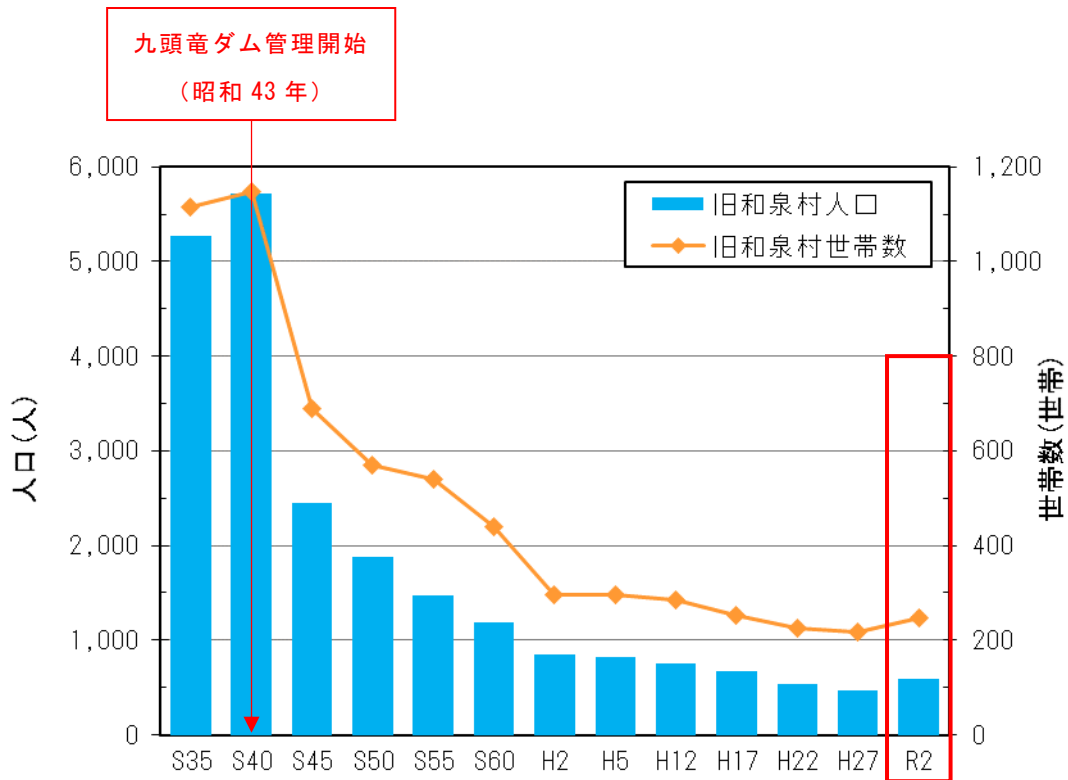


図 7.2-3 大野市和泉地区(旧和泉村)の人口・世帯数 経年変化

【出典：国勢調査 昭和35年～令和2年】

(4) 産業別就業者人口

大野市和泉地区(旧和泉村)における事業所数の経年変化を図 7.2-4、産業別就業者数の経年変化を図 7.2-5 に示す。

大野市和泉地区(旧和泉村)では、ダム管理を開始した昭和 43 年から昭和 50 年頃までは、事業所数、就業者数ともに増加していたが、それ以降は新大野市に統合されるまで年々減少している。

産業別就業者比率は、昭和 35(1960)～40(1965)年ではダム建設工事に伴う第二次産業就業者数比率が増加したが、昭和 40(1965)～45(1970)年にかけて、ダム建設に伴う移転やダム建設事業が終わったため大きく減少した。

その後も、第一次、第二次産業の衰退(昭和 62(1987)年の中竜鉱山閉鎖や林業の不振、高齢化に伴う農業就業者数の減少)等に伴い、第一次産業、第二次産業の就業者数が減少し、第三次産業の就業者人口割合が増加している。

令和元年に事業所数、令和 2 年に第二次産業の就業者数の増加が見られるが、中部縦貫自動車道の建設工事に伴う一時的な現象と想定される。

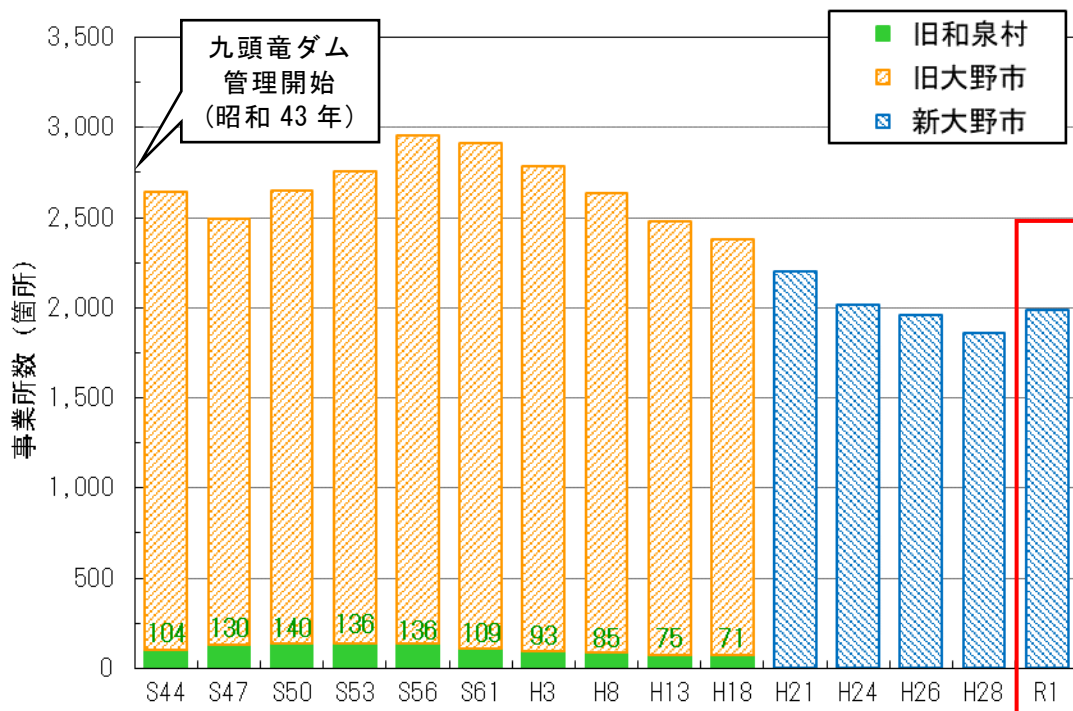


図 7.2-4 大野市(旧大野市・旧和泉村)の事業所数 経年変化

【出典：総務省・経済産業省「経済センサス(基礎調査結果・活動調査)」 昭和 44 年～令和元年】

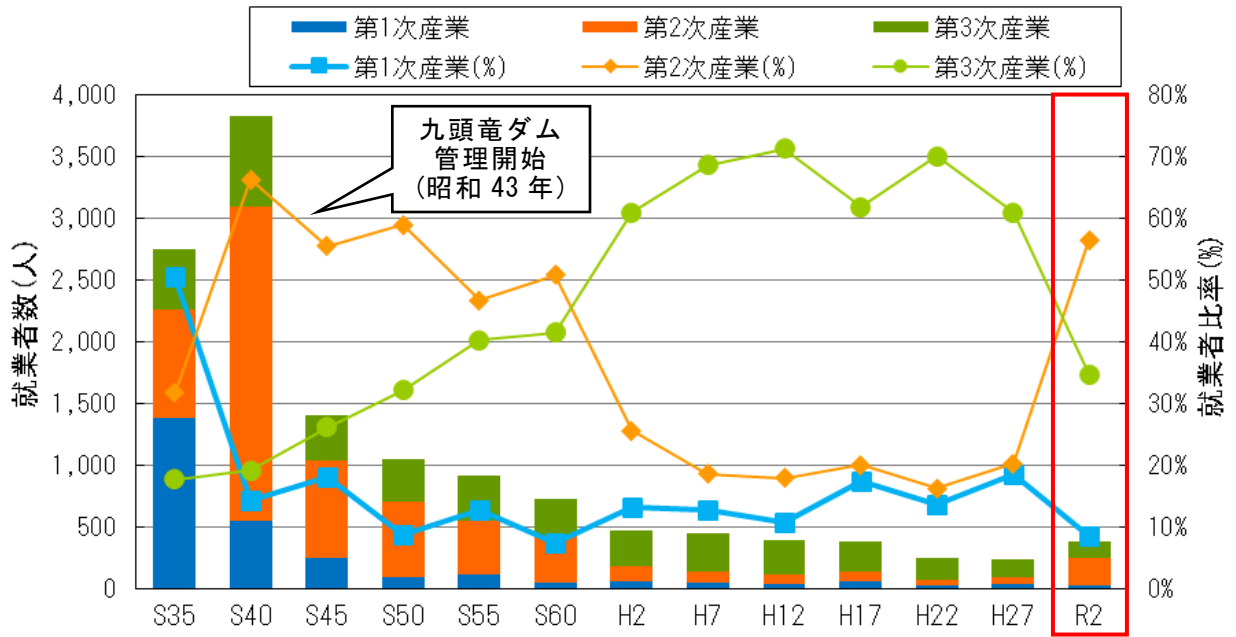


図 7.2-5 旧和泉村の就業者数及び就業者比率 経年変化

【出典：令和3年 福井県統計年鑑】



## 7.2.2 ダムの立地条件

### (1) ダムの立地条件

九頭竜ダムの水源地域は福井県大野市に位置している。平成 17 年 11 月 7 日に大野市と和泉村が合併し、新「大野市」が誕生した。同市の人口は 31,286 人（令和 2 年国勢調査）、面積は 872.43km<sup>2</sup>と福井県最大であり、その約 87%を森林が占めている。

【出典：令和 2 年国勢調査】

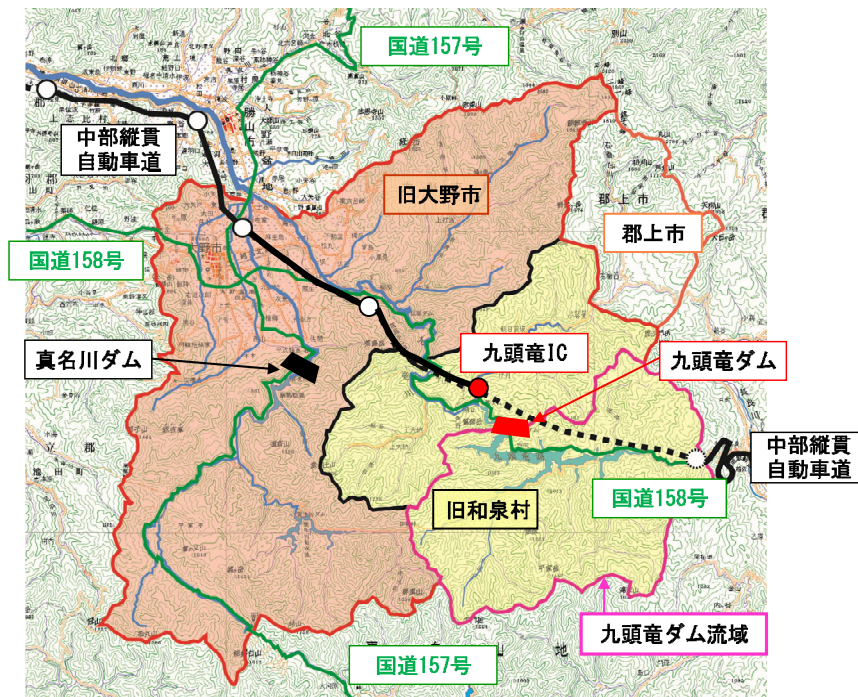
大野市は、福井県の東端に位置し、北東は石川県、東と南は岐阜県、西は福井市と池田町、北は勝山市と接している（図 7.2-1 参照）。

県都福井市から九頭竜ダムまでの距離は約 65km で、一般国道 158 号や中部縦貫自動車道を利用し約 1 時間 30 分、JR 越美北線を利用すれば九頭竜湖駅まで約 1 時間 40 分の距離にある。また大野市の市街地、岐阜県郡上市からも車で約 50 分の距離にあり、東海北陸自動車道等を利用すれば中京圏からも日帰り圏の距離にある。

水源地域を東西に通る一般国道 158 号は、福井県福井市から岐阜県高山市を經由して長野県松本市を結ぶ北陸、中部経済圏の産業、文化の交流を図る幹線道路で、地域の振興に欠かすことのできない道路である。

鉄道は、JR 越美北線（越美北線）が一般国道 158 号にほぼ平行して走り、福井駅で JR 北陸本線と接続している。また平成 27 年に北陸新幹線が金沢（石川県）まで開業し、現在は金沢～敦賀間の延伸区間を建設中であることから、首都圏等からのアクセスが今後さらに良くなることが期待されている。

幹線道路等については、現在建設中の中部縦貫自動車道（大野 IC-勝原 IC が 2023 年 3 月 19 日に開通）は水源地域を東西に通過する計画となっており、完成すれば東海北陸自動車道で中京圏と北陸自動車道で関西圏との時間距離が短縮される。福井県の東玄関口となる奥越前にとっての、「生命の道」「生活の道」「希望の道」になると期待されている。



注 1) 現在の大野市は、旧大野市と旧和泉村が合併している

注 2) 令和 5 年 3 月 19 日に「大野 IC～勝原 IC」が開通。

令和 5 年 10 月 28 日に「勝原 IC～九頭竜 IC」が開通。

図 7.2-6 大野市域と九頭竜ダム周辺の概略道路図



図 7.2-7 中部縦貫自動車道(大野市周辺)の概要

【出典：福井河川国道事務所 令和5年度事業概要パンフレット】

交通アクセス(大野まで)

●東京から

JR/東京駅(新幹線)→米原駅(北陸本線特急)

→福井駅(JR 越美北線)→大野 約4時間40分

飛行機/羽田空港～小松空港(連絡バス)

→福井駅(JR 越美北線)→大野 約3時間20分

高速バス/東京駅八重洲南口～福井駅(JR 越美北線)→大野 約9時間

●大阪から

JR/大阪駅・京都駅(湖西線特急)→福井駅(JR 越美北線)→大野 約2時間50分

自動車/大阪(名神高速)→米原JCT(北陸自動車道)

→福井IC(国道158号)→大野 約3時間20分

高速バス/大阪市阪急三番街高速バスターミナル～

福井(JR 越美北線)→大野 約4時間30分

●名古屋から

JR/名古屋駅(北陸本線特急)→福井駅(JR 越美北線)→大野 約3時間10分

自動車/一宮(東海北陸自動車道)→白鳥IC(国道158号)→大野 約2時間50分

名古屋(名神高速)→米原JCT(北陸自動車道)

→福井IC(国道158号)→大野 約2時間40分

高速バス/名鉄バスセンターJR名古屋駅～福井(JR 越美北線)→大野 約3時間50分

【出典：(一社)大野市観光協会「えちぜんおおの観光ガイド」、

(2) 大野市の観光入込

大野市(旧和泉村域)における最近 10 年間の観光入込み客数を以下に示す。

至近 10 ヶ年の観光入込み客数は、平成 25 年から増加傾向にあり、平成 28 年には約 138 万人に達した。その後、令和元年までは約 70 万人でよこばいであったが、令和 2, 3 年には新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、一時的に約 40 万人まで急激に減少した。令和 4 年度には、新型コロナウイルスによる規制が緩和され、観光入込み客数は過年度の 80% 程度に回復した。

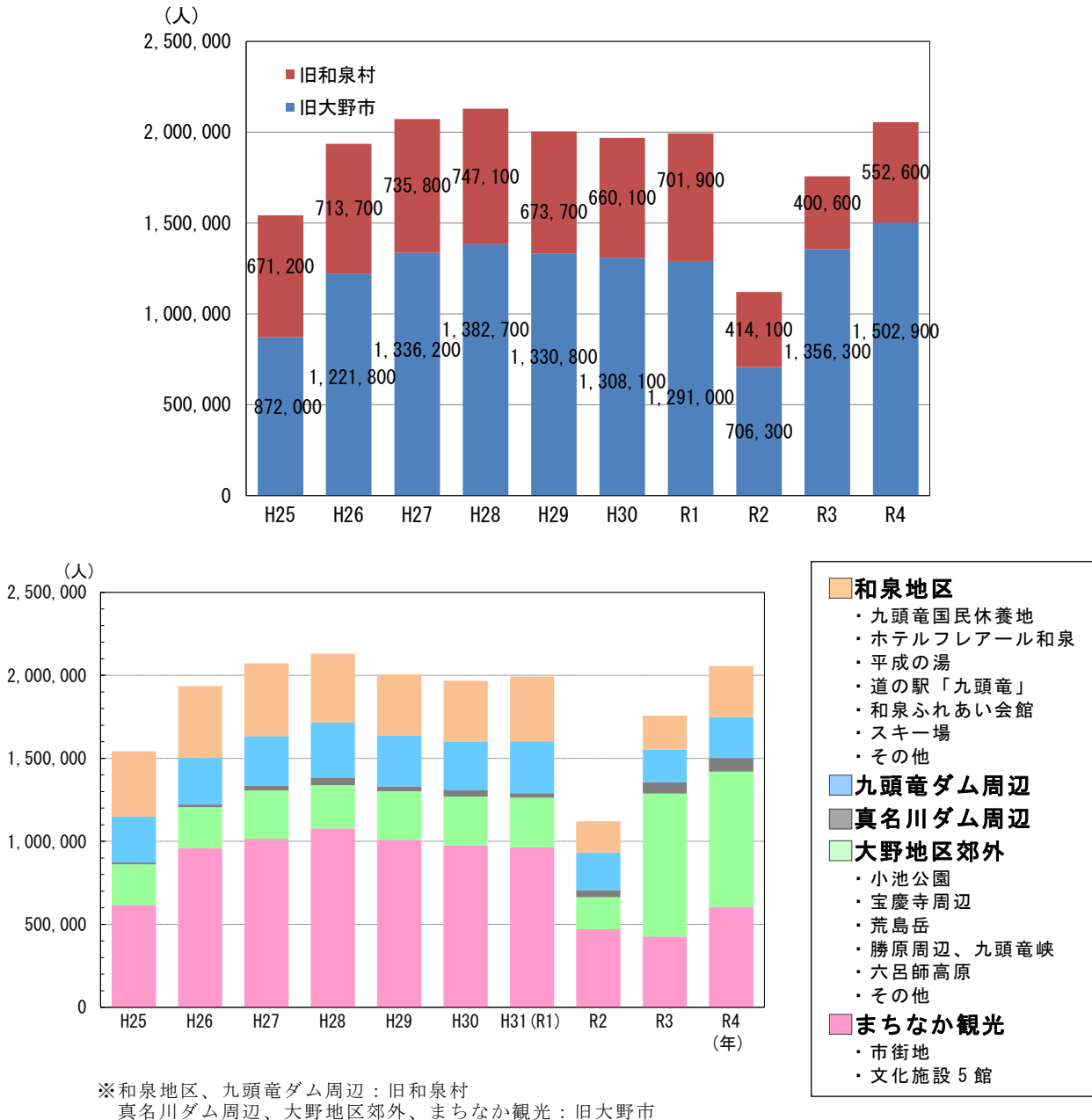


図 7.2-8 大野市における観光入込み客数の推移  
(上図：旧和泉村と旧大野市の内訳、下図：詳細内訳)

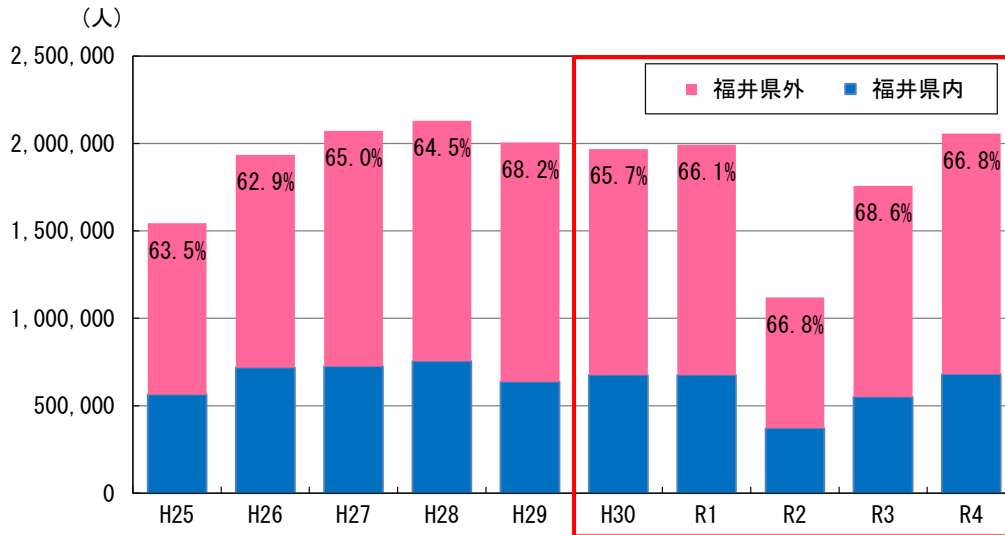


図 7.2-9 大野市の県内外別観光入込み客数の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

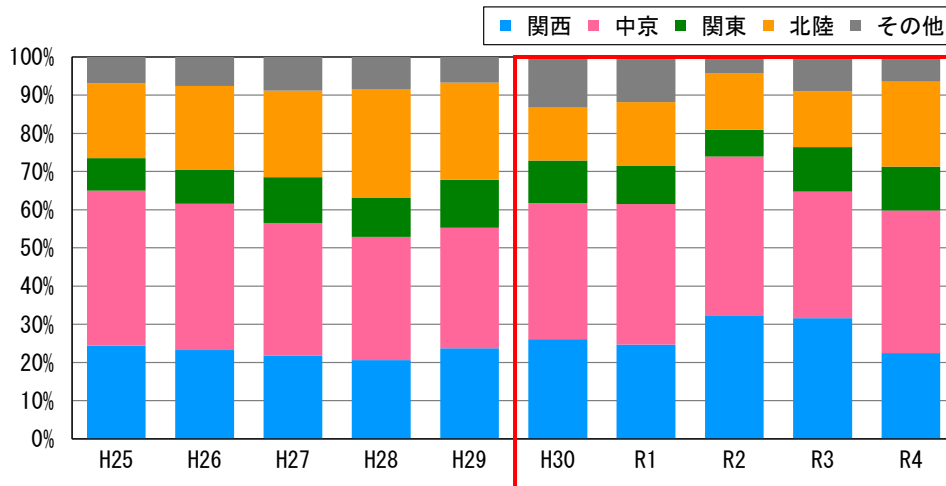


図 7.2-10 大野市の県外観光客の発地内訳の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

### 7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

#### 7.3.1 九頭竜ダム事業と地域社会の関わり

九頭竜ダム事業と地域社会の関わりの変遷を年表に整理した。

表 7.3-1 九頭竜ダム事業と地域社会の変化

年代	九頭竜ダム事業 インフラ整備事業	地域社会の変化
T3		越前電鉄の福井・大野間が開通
S31		下穴馬村・上穴馬村が合併して和泉村が発足
S33		石徹白村の三面・小谷堂を編入合併
S37	実施計画調査着手	
S40	建設工事着手	奥越豪雨、台風 24 号
S41	九頭竜川水系工事实施基本計画	
S43	九頭竜ダム竣工・管理開始	
S49	京福電鉄大野～勝山間廃線	
S50	主要地方道大野・墨俣線が国道 157 号に昇格	
S52		県営真名川発電所完成 地下水保全条例制定
S61		過疎地域振興特別措置法に追加指定
H7	九頭竜ダム周辺環境整備事業完成	
H12	九頭竜ダム貯水池水質保全事業完成	
H17	九頭竜ダム水源地域ビジョン策定	旧大野市と合併し和泉支所を開設 大野市地下水保全管理計画を策定
H18	九頭竜川水系河川整備基本方針策定 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン策定	
H19	九頭竜川水系河川整備計画策定	「湧水保全フォーラム全国大会 in 越前おおの」開催
H20		「森と湖に親しむつどい 2008 九頭竜湖・麻那姫湖サマーフェスタ」開催 「大野市中心市街地活性化基本計画」が認定
H21		全国植樹祭を奥越会場でも開催 越前おおの食文化の祭典と全国高校生食育王選手権大会を開催
H25	中部縦貫自動車道永平寺大野道路の大野・勝山間が開通	
H27		大野市人口ビジョン・総合戦略策定
H28		水への恩返し財団発足
R3		第六次大野市総合計画策定 道の駅「越前おおの荒島の郷」開設

### 7.3.2 観光イベント等の開催

水源地域の大野市和泉地区(旧和泉村)では、次のような観光イベントが開催されている。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コロナ禍においては一部のイベントの開催が中止された。

表 7.3-2 大野市和泉地区(旧和泉村)における開催イベント

	イベント名	会場	内容
5月	荒島山開き(芽吹祭)	蔵生駐車場	安全祈願祭、記念登山
	九頭竜アウトドアマルシェ	和泉地区	昇竜太鼓発表演奏、九頭竜マルシェ、カヤック体験、ヨガ体験、三脚スツール作り、化石発掘ツアー 等
7月	森と湖に親しむ旬間	九頭竜ダム 他	九頭竜ダム・長野地下発電所見学会、パネル展示、流木工作教室、流木の配布
10月	九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民 休養地	紅葉ステージ、紅葉市場、遊びの広場、流木作品展示、くらしの情報コーナー、トロッコ列車乗車体験、化石発掘体験 等

#### ◆荒島山開き(芽吹祭)(5月)

荒島岳山開き(芽吹祭)は5月上旬の日曜日に開催される。

荒島岳は、奥越高原県立自然公園のほぼ中央にそびえ、その秀麗な山容から「大野富士」とも呼ばれる奥越の名峰で、福井県内では唯一の「日本百名山」に選ばれている。



【出典：(一社)大野市観光協会】

#### ◆九頭竜アウトドアマルシェ(5月)

和泉地区の事業所がこの地区を盛り上げようと力を集結した体験型マルシェ。九頭竜マルシェや昇竜太鼓発表演奏、三脚スツール作り等が和泉地区の各会場で開催され、ツリークライミング等も体験できる。



【出典：福井県公式観光サイト「ふくいドットコム」】

◆森と湖に親しむ旬間(7月)

森と湖に親しみ心身をリフレッシュしながら、森林やダム湖の重要性について理解を深めていただくためことを目的としている。九頭竜ダム・長野地下発電所見学会、パネル展示、流木工作教室、流木の配布等が開催されている。



【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所 HP】

◆九頭竜紅葉まつり(10月)

紅葉ステージ、紅葉市場、遊びの広場、流木作品展示、くらしの情報コーナー、軽食販売等が開催されている。また、パネル展、流木の無料配布が実施されている。



【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所 HP】

## 7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

### 7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

九頭竜ダムは、大野市和泉地区(旧和泉村)に立地するダムで、周辺は福井県内でも有数の林業地帯でもある。都市域との広域的な交流は比較的利便性が良く、大野市街との連携・ネットワークにより、その活用が大いに見込める条件にある。

#### (1) 九頭竜ダム水源地域ビジョン(平成17年3月策定、平成18年2月に真名川ダム水源地域ビジョンと統合)

「九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、九頭竜ダム・九頭竜湖及びそれを取り巻く豊かな自然を保全し、活かしながら進める流域圏活性化のためのビジョンであり、平成17年3月に策定され、平成18年2月真名川ダム水源地域ビジョンと統合された。

九頭竜ダム水源地域ビジョンの基本方針を図7.4-1に、施策の実施イメージを図7.4-2に示す。

#### 【九頭竜ダム水源地域ビジョン 基本方針】

##### —水辺の活用—

- 九頭竜湖と湖に流れ込む支川、石徹白川、大納川など、大野市和泉地域を流れる美しい清流とその水辺空間を保全し、水にふれあえる場としての利用を図ります。
- 大野市和泉地域を象徴する広大なダム湖である九頭竜湖をカヌー体験やフィッシング体験などの場として活用します。
- 石徹白川、大納川、九頭竜川の親水エリア、九頭竜湖周の水辺の一体的な魅力を向上し、水辺スポットへの誘導を図ります。

##### —森林資源の保全と活用—

- 流域の森林は、九頭竜川の水を育む水源林として重要な役割を果たしていますが、近年の過疎・高齢化の進行や林業経営をとりまく社会状況の変化により山林の荒廃が懸念されており、その適正な状態の保全を図ります。
- 森林の恵みを体感し、森からもたらされる森林資源を活用した体験型活動拠点づくりを進めます。

##### —ふれあいと交流—

- 山村の歴史を受け継いできた人々の心、大野市を愛し、自然・文化を楽しむ心がふれあい機会をさらに広げていきます。
- 大野市和泉地域の自然・文化に魅了されている地域外の和泉ファンと地域住民とのイベントにおける交流や情報の交流をさらに進めます。

図 7.4-1 九頭竜ダム水源地域ビジョンの基本方針

【出典：九頭竜ダム水源地域ビジョン 平成17年3月】



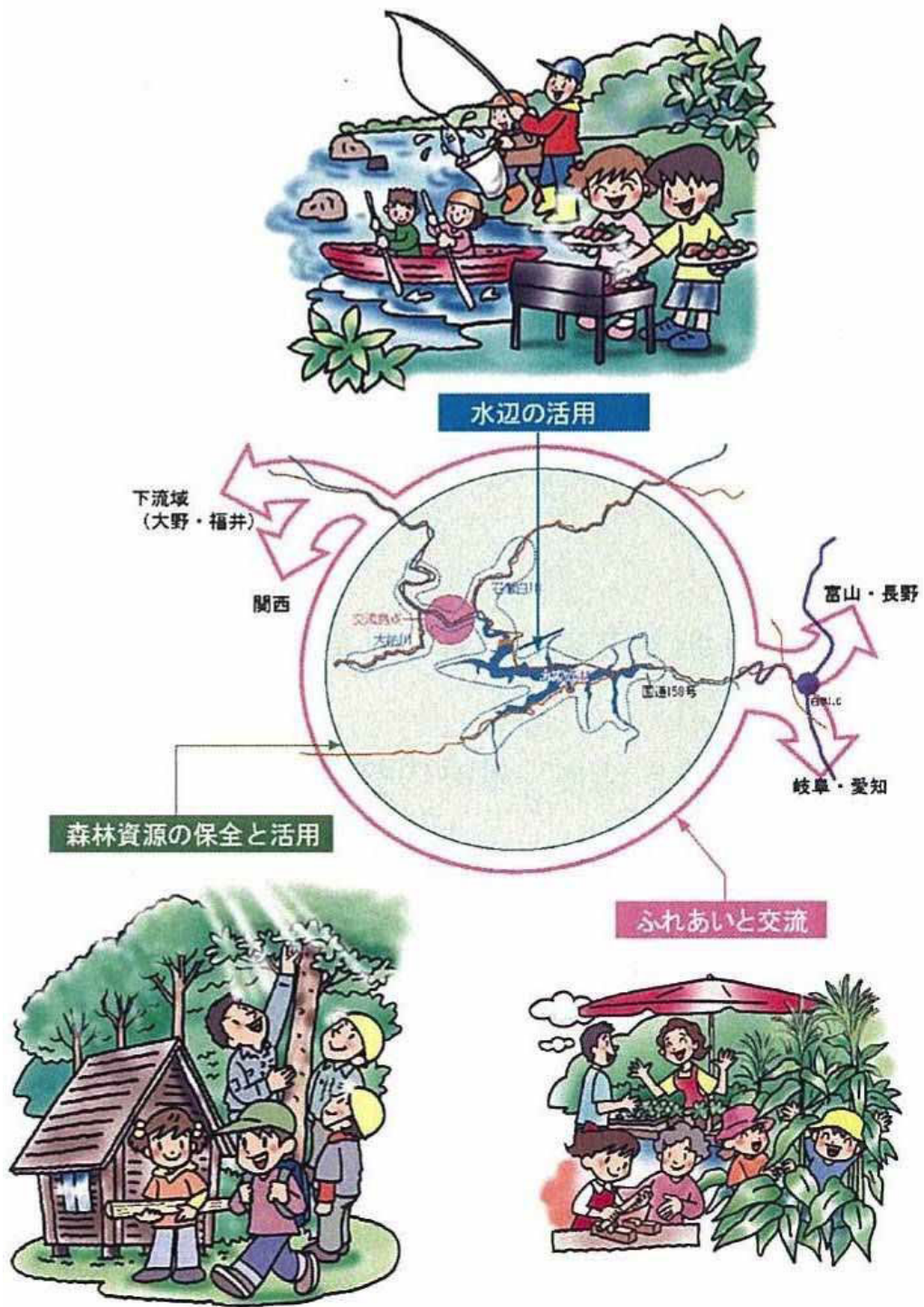


図 7.4-2 九頭竜ダム水源地域ビジョン 施策の実施イメージ

【出典：九頭竜ダム水源地域ビジョン 平成 17 年 3 月】

(2) 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの推進

平成17年11月の旧大野市と旧和泉村の合併に伴い、真名川ダム・九頭竜ダムの水源地域ビジョンを一体的に推進するため、平成18年2月に「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」が設立された。

「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、ダム水源地域の自治体・住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する、水源地域活性化のための行動計画である。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンでは、「森林」、「水」、「交流」の3つの柱のもとに水源林の保全や活用、健全な水環境の形成、多様な水辺の活用、活発な地域間の交流など様々な施策を実行することにより、水源地域の持続的な発展を目指す。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの活動イメージ、施策概要図を以下に示す。



図 7.4-3 令和3年7月 ビジョン委員会資料「水源地域ビジョンの施策の体系と取り組み、実施イメージ」

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

## 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン

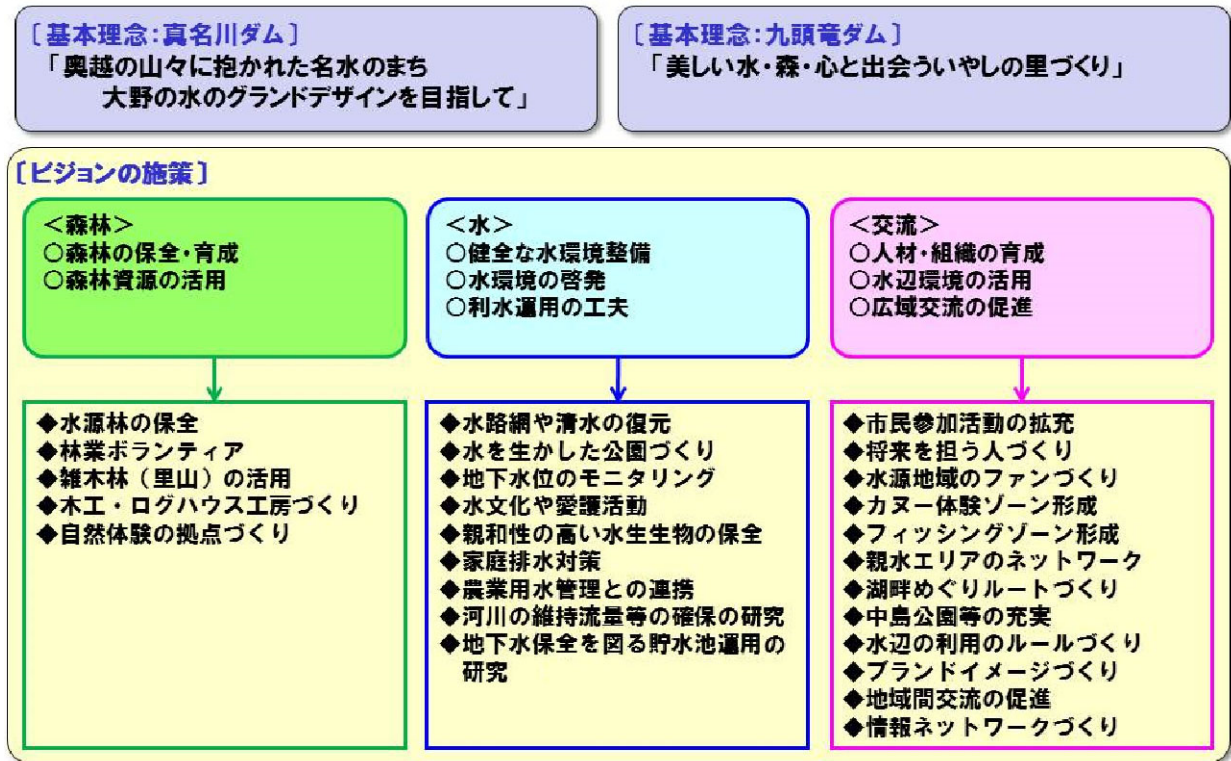


図 7.4-4 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン 施策概要図

【出典：平成 30 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会】

(3) 令和4年度以降の水源地域ビジョンの推進

「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、平成17年度に策定して以来、「森林」「水」「交流」の3つを柱として様々な活動に取り組んできた。一方で、令和3年に「大野市水循環基本計画（以下、水循環基本計画）」が策定され、大野市の水循環のさらなる健全化に向けた総合的な取り組みがスタートした。

水源地域ビジョンの「森林」「水」に関する施策の大半は、水循環基本計画で推進する施策と共通しているため、今後は大野市水循環推進協議会との連携・調整を図りながら各種施策を推進することとした。

一方、「交流」に関する施策は、水源地域ビジョン独自の取り組みが多数あるため、令和4年度に、水源地域ビジョン推進委員会の中に「水源地域交流推進協議会」を新たに設置し、引き続き関係機関と意見交換を行いながら取り組んでいくこととした。

なお、水源地域ビジョンとして策定した目的や方針は、今後も引き続き関係機関との連携の中で継続していく。

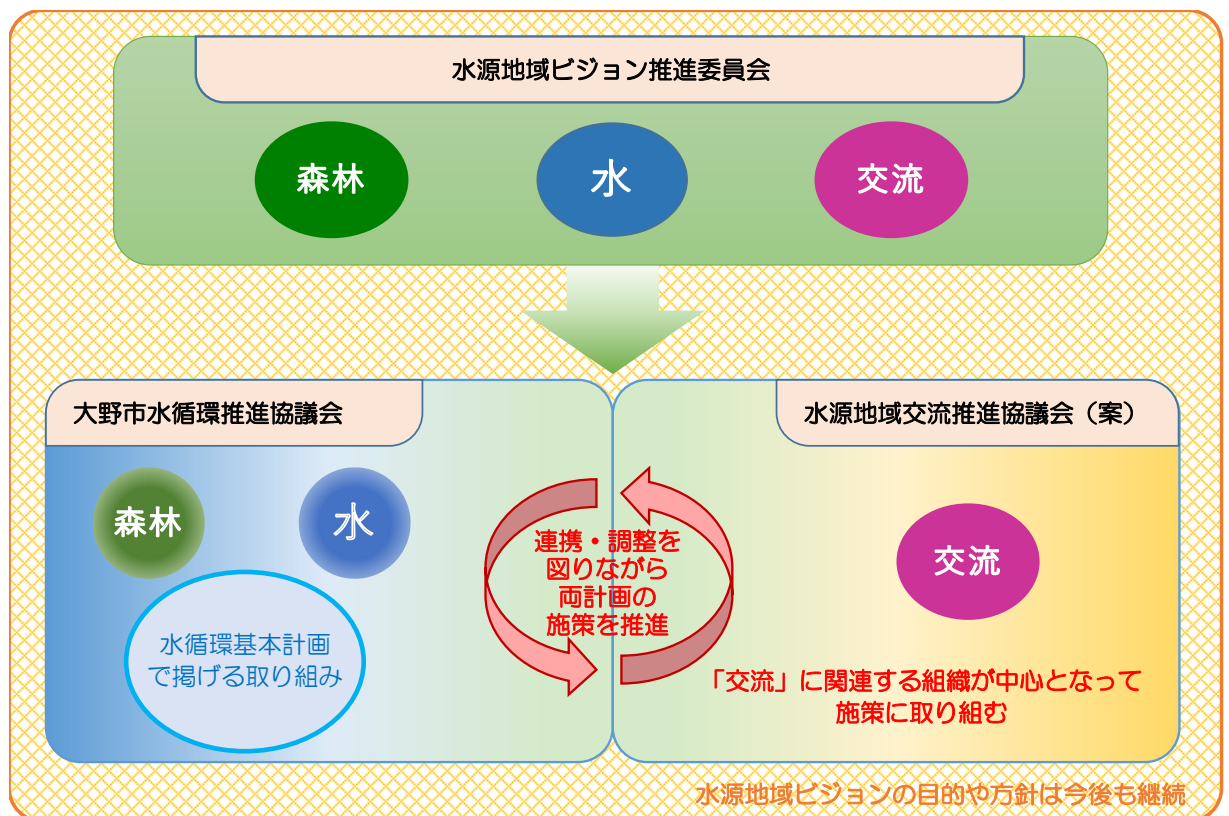


図 7.4-5 今後の水源地域ビジョンの施策の推進イメージ

7.4.2 地域とダムとの関わり

九頭竜ダムでは、地元地域の市町村との関わりとしてダム見学会開催などの様々な活動を実施している。平成30(2018)～令和4(2022)年の活動を表7.4-1に示す。

九頭竜新緑まつり、森と湖に親しむ旬間行事、九頭竜紅葉まつり、ダム周辺の紅葉情報の提供、ダムカードの配布、九頭竜ダム展示室の公開は、毎年恒例となっている。しかし令和2,3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部イベント等は中止となった。

地域とダムでは、水源地域ビジョンにある「森林」、「水」、「交流」の3つの柱をもとにした取り組みが実施されており、今後も継続することが望ましいと考えられる。

表 7.4-1 (1) 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(平成30年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成30年5月19日(土)・20日(日)	第32回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地(大野市角野)	・新緑まつり、新緑市場(特産品の販売)、化石発掘体験、ふるまい大鍋、国体記念企画(クイズ)体験、遊びの広場等・バス空席、遊木の無料配布	約22,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成30年(第1回)6月5日(火) (第2回)6月21日(木) (第3回)7月23日(月) (第4回)9月10日(月) (第5回)9月18日(火) (第6回)10月23日(火) (第7回)12月17日(月)	利活用ミーティング		昨年度の意見交換会をもとにまとめた「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」重点的な取り組み(案)の7/27～8/17試行期間として、可能なものから「やってみる」ことを実践しながら継続的な取り組みにつなげることを目的とする。定期的な意見交換会とはせず、活動やイベントの開催に向けて必要に応じて「ライブ」等を開き、実践の計画やふりかえりのための話し合いを行った。	10名	
平成30年6月16日(土)・17日(日)	第11回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成30年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市で開催された事を記念して始まったもので、九頭竜川の水源地から下流まで九頭竜川のみならず豊かな自然を受取る心・感謝する心を育てながら参加者相互の親善を深める大会となっている。	16チーム	もりみずカップ実行委員会
平成30年6月24日(日)	九頭竜ダム管理開始50周年記念感謝のつどい	学びの里『めいりん』講堂(大野市城町)	九頭竜ダムは平成30年7月で管理開始50年を迎えることから、地域の皆様への感謝の気持ちを表すとともに、改めてダムの成り立ちや役割を知っていただき、地域の方々とともにこれからも共に歩み始める場として開催。大野市長、大野市議会議員からの祝辞や、伊藤事務所長と電源開発(株)芳賀川事務所長による事業紹介、新しい「A1-1」の紹介や東洋大学の浜本教授による記念講演があった。また、レジオン病では、旧和泉村の方々による伝統芸能「青葉の笛・昇竜太鼓」、電源開発(株)による「ふれあいコンサート」が行われた。	約270人	九頭竜川ダム統合管理事務所、電源開発株式会社水力発電部中部支店九頭竜電力所
平成30年6月25日(月)～7月28日(金) 計15回	カヌーを使った水辺の安全教室・カヌー出前講座	九頭竜湖(下半原)、B&G海洋センタープール、市内小学校プール(下庄・有終西・有終東)	防災団体のほかなどの無償貸与制度を活用して、市内の小中学生を対象に、7/28～8/11まで「水辺の安全教室」や、出前講座を行った。 ・着衣泳、フライング浮遊体験、小学生体験、お風呂の機能など	延べ261名	大野市教育委員会
平成30年7月15日(日)	越前おおのエコフィールド「森づくりイベント(平家平植樹区域)林床整備」	平家平	どんぐり苗植樹区域の下草刈り、枝等の除去、補助杭の打ち直し等	22名	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成30年7月24日(火) 9:30～15:00	九頭竜川上流 水生生物調査	大野市朝日 石徹白川(前坂キャンプ場)	普段私たちが暮らしている場所のすぐそばにいる生き物たちについて調べるため、また身近な環境問題への関心を高めるため実施。 ・水中の虫をかし ・フエのつみどりを体験(塩焼きにして昼食) ・パケットテストで水質測定 ・ドローン機体体験	14名(保護者含む)	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成30年9月23日(日) 8:00～13:00	九頭竜湖釣り大会・ダムカレー教室	【釣り大会】 【釣り大会】 下半原キャンプ場(釣り場は九頭竜湖全域) 【釣り教室・ダムカレー教室】 副ダム(オートキャンプバスズクリゅう)	【釣り大会】 ・九頭竜湖での釣りの振興のため開催 ・7/27～7/29、17の部と7/29の部があり、参加費は高校生以上1,500円、中学生以下500円で事前応募制 【釣り教室】 ・釣りに親しんでもらうため、親子で開催 ・参加費は中学生以下500円 ・事前に放流したヤマメ等を漁協の指導の下、子ども達が釣り体験をした 【ダムカレー教室】 ・釣り大会参加者に昼食を提供するとともにダムに親しんでもうため開催・体験費:300円	釣り大会:約60組 釣り教室:約10組 ダムカレー教室:28名	奥越漁業協同組合
(開催時期) 平成30年9月29日(土)～10月9日(火) (カヌー競技実施日) 平成30年10月5日(金)～6日(土)	第73回国民体育大会 福井しあわせ元気国体(カヌー)	福井県大野市朝日・角野 九頭竜川特設カヌー会場	国体は、我が国最大のスポーツ祭典として広く親しまれ、国民の健康増進と体向上、スポーツの普及と発展、そして豊かで活力ある地域社会づくりに大きく寄与してきた。昭和43年に福井県で開催された第29回国民体育大会から50年ぶり、二巡目の開催。 本競技で福井県選手が総合成績で3位入賞。	大野市全体 約17,300人 うちカヌー競技 約1,500人(和泉地区のみ)	「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会実行委員会
平成30年10月14日(日)	越前おおのエコフィールド「ドングリの森づくりイベント」	平家平、秋生、越前おおのエコフィールド	・ドングリの苗木越冬作業 ・ドングリ拾い	約100人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成30年10月16日(火)～11月20日(火)	ダム周辺の紅葉情報提供	九頭竜ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物者を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成30年10月27日(土)・28日(日)	第39回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地(大野市角野)	・紅葉まつり、紅葉市場(飲食広場、特産品の販売)、ふるまい大鍋、バス乗車体験、化石発掘体験、遊びの広場(木工体験)など ・お粥、遊木の無料配布	約48,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成30年11月10日(土) 11:00～14:00	201811ミズベリングin和泉!!	九頭竜湖駅北側の和泉地域福祉センター西側の空き地	「水辺」は、川を感じて楽しみながら「水辺」の可能性に着目し、この17を中心に暮らしやすい豊かな社会づくりにつなげていく活動。参加費1,000円 ・オープニングセレモニー・酒造乾杯&昼食 【プログラム】 ・Aコース:流木アートに挑戦 ・Bコース:九頭竜ダム・発電所内見学 【オプション企画】 ・カヌー体験・参加費1,000円 ・化石発掘体験:参加費 大人1,000円 子供500円	52名	201811ミズベリングin和泉!!実行委員会
平成30年11月3日(土)・4日(日)・10日(土)・11日(日) 各日11:00～14:30	九頭竜湖紅葉バスツアー	JR九頭竜湖駅→九頭竜ダム→九頭竜湖→夢のかけ橋→道の駅九頭竜	・地元観光ガイド(観光協会新井会長)が九頭竜湖の絶景の紅葉ポイントを解説しながら巡り、観光の興に役立てる。 ・公共交通(鉄道)利用者の紅葉見学コースに対応。 ・参加費:2,000円(団体予約)当日:2,200円	4日開合計:150名	(一社)大野市観光協会
平成31年3月19日(火) 15:00～17:00	平成30年度真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会	結とびあ 201,202号室	「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」では、水源林の保全や活用、健全な水環境の形成、多様な水辺の活用、活発な地域間の交流などの様々な施策を実施することにより、水源地域の持続的な活性化を目指す。	23名	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成30年4月17日～平成31年3月31日(休館日:月曜・祝日の翌日) ※12月1日～3月31日は10名以上の団体等のみ	化石発掘体験	大野市化石発掘体験センターHOURS!!(九頭竜国民休養地内)	交流人口の増加と地域活性化を目的に、九頭竜川上流域に広がる和泉地区の地層から産出される恐竜の骨、貝類、植物などの化石を活用して、化石発掘体験を開催。鉄骨平屋建ての施設で、一度に最大200人が体験でき、古生代～中生代の地層の岩石を使って、多様な種類の化石を、異なる6つのゾーンから発掘することができる。	延べ8,264人(平成30年12月31日時点)	大野市
通年	ダムカードの配布	九頭竜ダム管理支所	ダム管理支所にて来訪者に「A1-1」を配布	14,073枚(累計58,860枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム管理支所1F	九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示。	延べ30,248人(平成30年4月～12月)	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：平成30年度 九頭竜ダム年次報告書】

表 7.4-1 (2) 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(令和元年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成31年4月5日(金) 平成31年5月8日(水) →最小催行人数に満たなかったため中止	ダムカードを集めよう！九頭竜ダム&真名川ダム編	九頭竜ダム、真名川ダム、長野発電所、大野市街	岐阜駅北口(集合)→九頭竜ダム見学→長野地下発電所見学→大野市街で昼食・散策→真名川ダム見学→岐阜駅北口(解散)	22名	岐阜バス(岐阜乗合自動車(株))
令和元年5月18日(土) ・19日(日)	第33回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地(大野市角野)	・新緑ステージ、新緑市場(飲食市場、特産品の販売)、化石発掘体験、ふるまい大鍋、ビンゴ大会(19日)、遊びの広場等 ・バネ展、流木の無料配布	約23,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
令和元年(第1回)6月11日(火) (第2回)7月1日(月) (第3回)7月17日(水) (第4回)8月7日(水) (第5回)8月23日(金) (第6回)10月7日(金) (第7回)12月2日(月)	利活用ミーティング		昨年度実施したプログラムを改良しながら継続するとともに、新たなプログラムについてもアイデアを出し合い企画・準備、試行した。 定期的な意見交換会とはせず、活動やイベントの開催に向けて必要に応じて「ワークショップ」等を開き、実践の計画やふりかえりのための話し合いを行った。	10名	・和泉自治会 ・大野市観光協会 ・NPOドラゴンリバー交流会 ・奥越漁業協同組合 ・道の駅九頭竜 ・スポーツワールド ・ノーム自然環境教育事務所 ・大野市 産産建設部
令和元年6月15日(土) ・16日(日)	第12回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市で開催された事を記念して始まったもので、九頭竜川流域の市町のチームを招いて、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子ども達の心身の健全な発育を図り、相互の親善を深めるとともに、個人技術の上達を図ることを目的としている大会。 ※15日終盤から16日は悪天候のため中止	16チーム(約300人)	もりみずカップ実行委員会
令和元年7月2日(火) ～8月4日(日) 計13回	カヌーを使った水辺の安全教室・カヌー出前講座	九頭竜湖(下半原)、B&G海洋センターブルー、市内小学校プール(下庄小・上庄小)	B&G財団のボートなどの無償貸与制度を活用して、市内の小中学生を対象に、アールダム湖を使った水辺の安全教室や、カヌー出前講座を行った。 ・着衣泳、3/4ジャブ浮遊体験、ペットボトル浮き、小学生カヌー体験、カヌーの操艇など	延べ321名	大野市教育委員会
令和元年7月13日(日)	越前おおのエコフィールド「森づくりイベント(平家平植樹区域)林床整備」	大野市平家平	・植樹した「どんぐり」の苗木の草刈り、枯れ木等の除去 ・「どんぐり」の苗木への補助杭の打ち直し等	16名	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会委員等
令和元年7月24日(水) 9:30～15:00	九頭竜川上流 水生生物調査	大野市朝日石徹白川(前坂キャンプ場)	普段私たちが暮らしている場所のすぐそばにいる生き物たちについて調べるため、また身近な環境問題への関心を高めるため実施。 ・水生生物さがし ・ヤマメのつかみどり体験(塩焼きにして昼食) ・バックテストで水質測定	26名(保護者含む)	九頭竜川ダム統合管理事務所
令和元年7月28日(日) 10:00～16:00	森と湖に親しむ旬間行事「九頭竜ダム・長野地下発電所見学会」	九頭竜ダム・九頭竜湖 長野発電所	毎年7月第4土日に開催している行事で、森林やダム湖の重要性について理解を深めたいとすることを目的に真名川ダムや九頭竜ダム、佐生川ダム、長野地下発電所の見学会などを行っている。 ・パネル展示 ・水上巡視体験 ・冬期連絡通路の開放 ・ダムカラー教室 ・ダム施設見学 ・ドリンク、かき氷販売 ・お絵かきコーナー ・流木プレゼント・流木工作教室 ・顔はめパネル ・長野発電所見学	九頭竜ダム会場 約400人 長野発電所 約160人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
令和元年9月14日(土) 8:30～14:00	ミスベリキングin和泉!!	パークホテル九頭竜前の河原	昨年度は別々に実施した「九頭竜釣り大会」と「ミスベリキング」を合同開催とし、釣りやカヌーなど水辺に親しむ場があること、川魚や地酒、まいたけなどの地場産品が楽しめることなど、和泉地区の魅力やPRする機会の創出を図った。 【プログラム】 ・Aコース：九頭竜川親子釣り教室(遊漁料含む) ・Bコース：水辺で乾杯！(地酒、昼食含む) ・Cコース：A、B両方に参加 ※昼食：まいたけご飯、焼き魚、コクチバスのフライ 【オプション企画】 ・カヌー体験	約80人	九頭竜GENRYU水遊び会
令和元年7月8日(金) ～令和2年2月20日(木)	ないもの探し、奥越	下山地区、九頭竜ダム資料館、石徹白川、九頭竜川等	(公社)日本水産資源保護協会が支援する「やるぞ内水面漁業活性化事業」の採択事業で、奥越地区に潜在する様々なモノ(自然や環境、風土、歴史、慣習などを含めたもの)を活用し、体験プログラムとして提供することで奥越ファンを創出するとともに、その中から川に興味を誘導することで遊漁者の拡大と新たな組合員の確保を図ることが目的。体験の後には参加者とランチミーティングを開催し、「ウチダザリガニ」を活用した食の提供と、交流を兼ねた意見交換の場を設けた。	134名	奥越漁業協同組合
令和元年10月5日(土)	越前おおのエコフィールド「どんぐりの森づくりイベント」	南六呂師、越前おおのエコフィールド	・「どんぐり」の苗木越冬作業 ・「どんぐり」拾い	約120人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
令和元年10月15日(火) ～11月26日(火)	ダム周辺の紅葉情報提供	九頭竜ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
令和元年10月26日(土) ・27日(日)	第40回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地(大野市角野)	・紅葉ステージ、紅葉市場(飲食広場、特産品の販売)、ふるまい大鍋、ミニSL乗車体験、化石発掘体験、重点道の駅名称発表、思い出カプセル便コーナー、遊びの広場(木工体験)など ・バネ展、流木の無料配布	約52,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
令和元年11月2日(土) ～5日(土)・9日(土) 各日11:05～14:10	絶景の紅葉めぐり(九頭竜湖バスツアー)	九頭竜湖駅→九頭竜ダム管理支所→穴馬社公園→ドライブイン九頭竜→夢のかげ橋→道の駅九頭竜	・地元観光バスが九頭竜湖の絶景の紅葉ポイントを解説しながら巡り、観光の振興に役立てる。 ・公共交通(鉄道)利用者の紅葉見学ニーズに対応。 ・参加費：3,200円	合計：124名	(一社)大野市観光協会
平成31年4月17日～令和2年3月31日(休館日：月曜・祝日の翌日) ※12月1日～3月31日は10名以上の団体等のみ	化石発掘体験	大野市化石発掘体験センターHOROSSA!(九頭竜国民休養地内)	交流人口の増加と地域活性化を目的に、九頭竜川上流域に位置する和泉地区の地層から産出される恐竜やアモイ、貝類、植物などの化石を活用して化石発掘体験を開催。鉄骨平屋建ての施設で、一度に最大200人が体験でき、古生代～中生代の地層の岩石を使って、多様な種類の化石を異なる6つのゾーンから発掘することができる。	延べ8,254人(令和2年1月31日時点)	大野市
通年 9:30～16:30 (平日・休日を問わず開館)	ダムカードの配布	九頭竜ダム管理支所	ダム管理支所にて来訪者に「ダムカード」を配布	20,376枚(累計79,236枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム管理支所1F	九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示。	延べ38,515人	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：令和元年度 九頭竜ダム年次報告書】

表 7.4-1 (3) 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(令和2年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
通年 9:30~16:30 (平日・休日を問わず開館)	ダムカードの配布	九頭竜ダム管理支所	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	2,103枚 (累計81,339枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
通年 9:30~16:30 (平日・休日を問わず開館)	九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム管理支所1F	九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示。	延べ10,074人	九頭竜川ダム統合管理事務所

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点によりR2.2.28~10.31までダムの見学・ダムカードの配布を中止  
※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、R2.2.27午後3時~10.31は閉館

【出典：令和2年度 九頭竜ダム年次報告書】

表 7.4-1 (4) 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(令和3年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
令和3年4月22日(木) 9:00~	「越前おおの荒島の郷(あらしまのさと)」開駅式典	道の駅 「越前おおの荒島の郷」 9:00~18:00 (定休日:12月31日、1月1日) ※道路情報提供コーナー、トイレは24時間利用可能	荒島岳の麓にオープンし、地元食材を使ったフードコートや地場産品が買える「荒島マルシェ」、アトミック「モンベ」の出店や、カヌー・カヌー体験が出来る、県内最大の道の駅となっている。また大規模災害を想定し、防災拠点として自家発電設備や防災倉を設置している。 情報コーナーにはダム情報を表示するモニターの設置や、九頭竜川水系に生息する希少な魚類の飼育展示をしているミズ族館がある。 開駅式典では、道の駅登録証の伝達や、テープカット、地元保存会の太鼓の演奏や、パルンリスなどが行われた。	初日来場者: 約4,500人	中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社
令和3年6月12日(土) ・13日(日) ※13日は雨のため中止	第13回 もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場 (福井県大野市篠原)	平成20年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市で開催された事を記念して始まり、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子ども達の心身の健全な発育を図り、親善を深めるとともに、個人技術の上達を図ることを目的に行われている。	16チーム	もりみずカップ実行委員会
令和3年11月6日(土) ・7日(日)	九頭竜まるごと体験マルシェ	和泉地区 (道の駅九頭竜、九頭竜ダム、ホロッサ 等)	和泉地区の事業所がコト場の中、この地区を盛り上げようと力を集結した体験型マルシェ。 秋の味覚大鍋、昇竜太鼓発表演奏、うまいもん臨時売店、手作りお菓子教室、紅葉めぐりバスツアー、釣り堀、ホッツ、Uボート体験 等	約4,900人	九頭竜まるごと体験マルシェ実行委員会
	ダム湖周辺の紅葉情報提供	九頭竜ダム周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮影し、「紅葉情報」としてツイッター等に掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
毎年4月17日~ 翌年3月31日 (休館日:月曜日・祝日の翌日) ※12月1日~3月31日は10名以上の団体等のみ ※令和3年度は2月27日まで完全予約制で開館	化石発掘体験	大野市化石発掘体験センター HOROSSA! (九頭竜国民休養地内)	交流人口の増加と地域活性化を目的に、九頭竜川上流域に位置する和泉地区の地層から産出される恐竜やウツボ、貝類、植物などの化石を活用して化石発掘体験を開催。鉄骨平屋建ての施設で、一度に最大200人が体験でき、古生代~中生代の地層の岩石を使って、多様な種類の化石を異なる6つのゾーンから発掘することができる。	—	大野市
通年 9:00~17:00 (土・日・祝日含む)	ダムカードの配布	九頭竜ダム管理支所	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	2,650枚 (累計83,989枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
通年 9:30~16:30 (閉館日なし)	九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム管理支所1F	九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示。流木配布も。	延べ12,064人	九頭竜川ダム統合管理事務所

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により4月27日から6月4日、6月25日から10月14日、令和4年1月14日~4月24日までダムの見学・ダムカードの配布を休止

【出典：令和3年度 九頭竜ダム年次報告書】

表 7.4-1 (5) 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(令和4年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
令和4年4月17日～ 令和5年3月31日 (休館日：月曜日・祝日の翌日) ※12月1日～3月31日は完全予約制	化石発掘体験	大野市化石発掘体験センターHOROSSA! (九頭竜国民休養地内)	交流人口の増加と地域活性化を目的に、九頭竜川上流域に位置する和泉地区の地層から産出される恐竜やアノキイ、貝類、植物などの化石を活用して化石発掘体験を開催。鉄骨平屋建ての施設で、一度に最大200人が体験でき、古生代～中生代の地層の岩石を使って、多様な種類の化石を異なる6つのゾーンから発掘することができる。	延べ5,649人 (令和5年2月28日時点)	大野市
令和4年5月～11月上旬 (随時受付) ①7:30～9:30 ②9:30～11:30	九頭竜湖カヤックツアー	九頭竜湖	奥越地域の自然・産業資源を媒介して、次世代の地域を担う人材育成を目的としている。また、四季を通して地域の人材・農林業・暮らしや文化を活かした参加体験型エコ・グリーンツーリズムを進めることで、来訪者に地域のすばらしさを体験していただいている。	未報告	ノーム自然環境教育事務所
令和4年5月14日(土)～ 5月22日(日)	九頭竜まるごと体験マルシェ (例年開催されてきた「九頭竜新緑まつり」から変更)	和泉地区 (道の駅九頭竜、九頭竜ダム、ホロッカ 等)	和泉地区の事業者がコア拠点の中、この地区を盛り上げようという力を集結した体験型マルシェ。 秋の味覚大鍋、昇竜太鼓発表演奏、うまいもん臨時売店、手作りお菓子教室、紅葉めぐりバスツアー、釣り堀、おやつ、お茶会体験 等	約9,300人	九頭竜まるごと体験マルシェ実行委員会
令和4年6月4日(土)・ 5日(日)	第14回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市で開催された事を記念して始まったもので、九頭竜川流域の市町のチームを招いて、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子ども達の心身の健全な発育を図り、相互の親善を深めるとともに、個人技術の上達を図ることを目的としている大会。	16チーム (約300人)	もりみずカップ実行委員会
令和4年6月5日(日) 8:00～9:30	クリーンアップふくい大作戦 ～ふくい海ごみゼロチャレンジ2022～	真名川憩いの島(大野市麻生島)など	河川に投棄されたゴミが海へ流れ着くことで、魚や水辺の生き物などへの悪影響を与えることから、九頭竜川沿川市町で「海ごみゼロ」をテーマに7会場に分け、地域住民の方々や各種団体、企業・行政が連携した清掃活動を実施している。	25名	福井県、NPO法人ドラゴンリパー交流会など
令和4年6月8日(水)	九頭竜ダムでの外来魚共同調査・駆除	九頭竜ダム	特定外来種であるコクチバスは様々な在来生物に影響を及ぼすことから、浅瀬に集まる産卵時期の6月上旬に各関係機関と共同で、毎年釣りや刺網による駆除を実施している。	約30人	福井県
令和4年6月12日(日) 8:00～12:00	第19回身近な水環境の全国一斉調査	真名川、清滝川、赤根川、木瓜川、善導寺川	平成16年度より毎年、世界環境デー(6月5日)に最も近い日曜日を中心に「身近な水環境全国一斉調査」として、全国各地において行われている水質調査。河川水の水透明度やCOD、PH等の計測を実施した。	18人	大野の水環境ネットワーク
令和4年6月21日(火)～ 10月16日(日) 計43回	カヌーを使った水辺の安全教室・カヌー出前講座	九頭竜湖(下半原)、B&G海洋センタープール、市内小学校プール(下庄小・上庄小)	B&G財団のボートなどの無償貸与制度を活用して、市内の小中学生を対象に、九頭竜湖でカヌーを使った水辺の安全教室、カヌー出前講座を行った。 ・着衣泳、浮力バウ浮遊体験、ペットボトル浮き、小学生カヌー体験、カヌーの操縦など	延べ798名	大野市
令和4年7月13日(水)	越前おおのエコフィールド「森づくりイベント」 ・林床整備(南六呂師植樹区域) ・コスモス等の播種	南六呂師	・植樹した「ドングリ」の苗木の下草刈り、枝等の除去 ・「ドングリ」の苗木への補助杭の打ち直し等 ・約100株の花苗の植え付け	18名	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会委員等
令和4年7月28日(木)・ 29日(金) 10:00～16:00	森と湖に親しむ旬間行事 「九頭竜ダム・真名川ダム見学会」	九頭竜ダム・九頭竜湖 長野発電所 真名川ダム	森林やダム湖の重要性について理解を深めていただくことを目的に真名川ダムや九頭竜ダム・笹生川ダム、長野地下発電所の見学会などを行っている。(令和4年度は団体見学会等の人数制限を実施) ・パネル展示・冬期連絡通路の開放・ダム施設見学・長野発電所見学 など	九頭竜ダム会場 約130人 真名川ダム会場 約80人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
令和4年8月1日(月) 9:00～15:40	自然ふれあい探検隊2022	麻耶姫湖青少年旅行村(中島公園)	大野盆地を囲む山々を水源とした九頭竜川水系雲川で、自然とふれあいながら、河川の水環境を学ぶ学習会。子供達は川に入って水生生物の捕獲や河川水の水質調査、水難事故防止動画の視聴とライフジャケットを着用しての安全な浮き方や溪流登りなどを体験する。	18人	九頭竜川ダム統合管理事務所、大野市
令和4年10月8日(日)	越前おおのエコフィールド「ドングリの森づくりイベント」	南六呂師、どんぐり広場	・ドングリの苗木越冬作業 ・ドングリの植樹	約80人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
令和4年10月18日(火)～ 11月22日(火)	ダム周辺の紅葉情報提供	九頭竜ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
令和4年10月29日(土)・ 30日(日)	第43回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地(大野市角野)	・紅葉ステージ、紅葉市場(飲食広場、特産品の販売)、ふるまい大鍋、遊びの広場(緑日コーナー、木工体験)、地元中学生による石焼き芋の販売など ・パネル展、流木の無料配布	約53,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
令和4年10月31日(水)・ 11月4日(金) (4日は最少催行人数に満たず中止)	絶景秋の九頭竜湖 (九頭竜湖バスツアー)	JR九頭竜湖駅→九頭竜ダム展示館→穴馬神社公園→ドライブイン九頭竜→夢のかけ橋→JR九頭竜湖駅	・地元観光ガイドが九頭竜湖の絶景の紅葉スポットを解説しながら巡り、観光の振興に役立てる。 ・公共交通(鉄道)利用者の紅葉見学ニーズに対応。 ・参加費：6,000円	合計：48名	(一社)大野市観光協会 実施：大野観光バス
通年 9:30～16:30 (平日・休日を問わず開館)	ダムカードの配布  九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム管理支所  九頭竜ダム管理支所1F	ダム管理支所にて来訪者に「ダムカード」を配布  九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示。	7,566枚 (累計91,555枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所  九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所 HP】



## 7.5 ダム周辺の状況

### 7.5.1 ダム周辺整備の状況

九頭竜ダムの持つ広大な水と緑を活かして、よりすばらしい環境の創出を図るため、ダム周辺環境整備事業を実施した。各地区の整備状況を表 7.5-1 及び図 7.5-1 に示す。

その他、九頭竜川ダム統合管理所九頭竜ダム管理支所に展示室が整備されている。また、ダムサイトに位置している旧和泉村を中心に、国民休養地整備事業及び特定山村新興対策パイロット事業により、九頭竜国民休暇地が整備されている。

九頭竜ダム周辺の各地区で整備テーマごとに散策路やキャンプ場、休憩所を設置しており、「森林」「水」「交流」の3つを柱とした「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」の施策方針に沿った整備状況であると伺える。

表 7.5-1 地区別整備状況

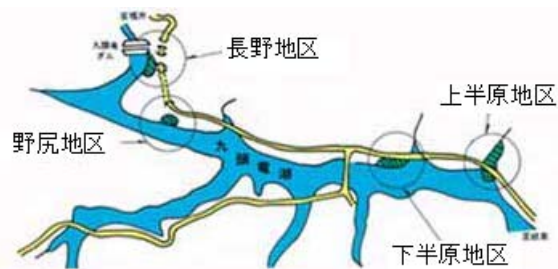
地区名	整備テーマ	整備施設
長野地区	PR 広場	駐車場、案内板
野尻地区	展望と活動広場	法面整備、休憩所
下半原地区	観桜広場	散策路、キャンプ場
上半原地区	遊水広場	オートキャンプ場

【出典：九頭竜川流域誌 平成 12 年 10 月】



長野地区

野尻地区



下半原地区

上半原地区

上半原地区

図 7.5-1 九頭竜ダム周辺環境整備事業における各地区の整備状況

【出典：九頭竜川流域誌 平成 12 年 10 月】

### 7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

大野市の観光統計資料によると、九頭竜ダム周辺の入込み客数は、平成25年～令和元年まで約30万人でよこばいであったが、令和2,3年には新型コロナウイルスによる行動制限などの影響で約20万人に減少した。令和4年は回復傾向があるものの、コロナ禍以前の入込み数は見られない。

また、九頭竜ダムの資料室入場者数は、令和2,3年の新型コロナウイルスの流行により大きく減少したが、令和4年度は回復し、至近10ヶ年で最大となっている。

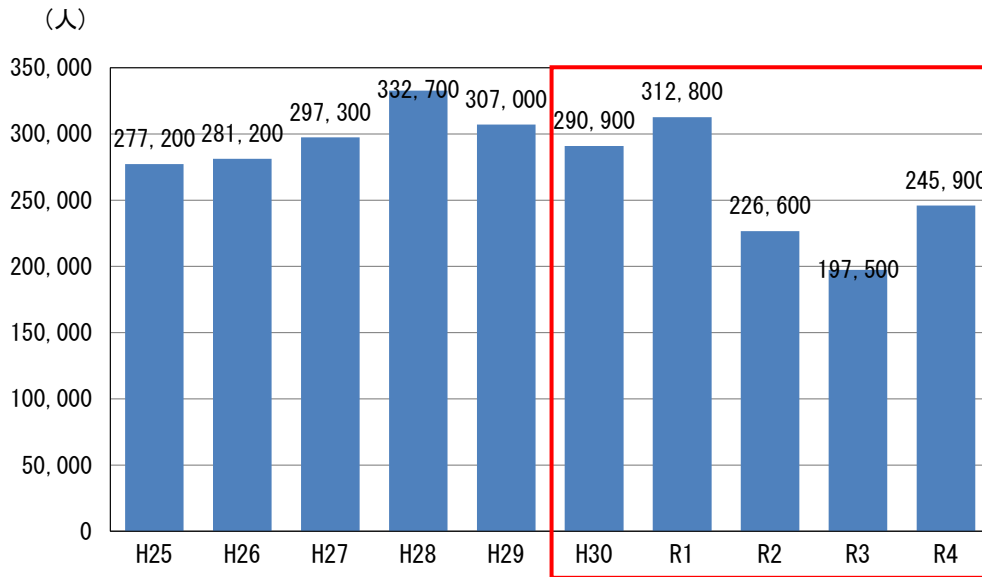


図 7.5-2 九頭竜ダム周辺の入込み客数の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

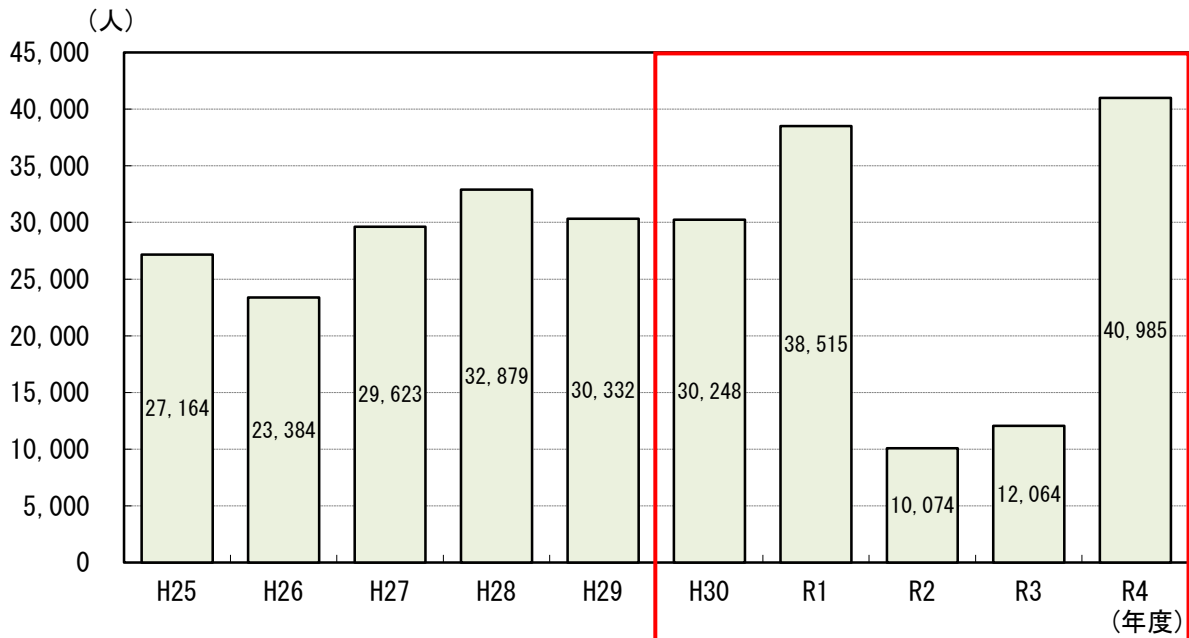


図 7.5-3 九頭竜ダムの資料室入場者数の推移

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

### 7.5.3 ダムおよびダム周辺のイベント等の開催状況

#### (1) 森と湖に親しむ旬間行事等

九頭竜ダムでは、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環として、毎年九頭竜ダムと長野地下発電所の見学会を開催している。また他にも、春季の「九頭竜アウトドアマルシェ」、秋季の「九頭竜紅葉まつり」など、多くの観光客が集まるイベントが開催されている。

なお新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、令和2,3年度は一部イベントが中止となった。

2022.7.28~29

『森と湖に親しむ旬間』イベントを開催!

～九頭竜川ダム統合管理事務所～

森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、真名川ダムおよび九頭竜ダムの見学会を開催しました。

3年ぶりとなる今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策や団体見学会人数の制限を行っての開催となりました。真名川ダム会場では首段は見れないダム堤体内や約50mまで吹き上げる噴水の見学、九頭竜ダムでは639段ある冬期連絡通路の体験や長野発電所側から見上げる高低差128mの圧倒的なダム風景に記念撮影など、多くの方々にご参加頂き、ダムを楽しんで頂きました。

開催概要

- 真名川ダム会場
  - 日 時：令和4年7月28日(木)
  - 来場者数：約80人
- 九頭竜ダム会場
  - 日 時：令和4年7月29日(金)
  - 来場者数：約130人
- 主 催：「森と湖に親しむ旬間」行事運営連絡会



テレビ撮影の様子 (FBC放送)

真名川ダム会場の様子



ダムの大さに感動



巨大な噴水に大喜び



ゲート構造に興味津々

九頭竜ダム会場の様子



パネル展の説明を受ける方々



冬期連絡通路(639段)にチャレンジ



ダムを背景に記念撮影

参加者の声

＜真名川ダム会場＞

- キャットウォークは高くて怖かったけど、楽しかった。
- 堤体内は14℃で涼しく、最高でした。来年もまた来ます。

＜九頭竜ダム会場＞

- 冬期連絡通路は、下だけでも足がガクガクになりましたが、楽しかったです。
- 下から見るダムは大きくて迫力がありました。
- ダムの事が良くわかりました。

真名川ダム・九頭竜ダムでは、希望される方々を対象に見学会を開催しています。下記ホームページより、お気軽にお申し込み下さい。

真名川ダム: <https://www.kkr.mlit.go.jp/kuzuryu/sankou/kengaku/managawa/kengaku.htm>  
 九頭竜ダム: <https://www.kkr.mlit.go.jp/kuzuryu/sankou/kengaku/kuzuryu/kengaku.htm>

【問い合わせ先】 国土交通省 近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所 〒912-0021 福井県大野市中野29-28 管理課 TEL:(0779)66-5300(代)

図 7.5-4 森と湖に親しむ旬間行事の実施報告書

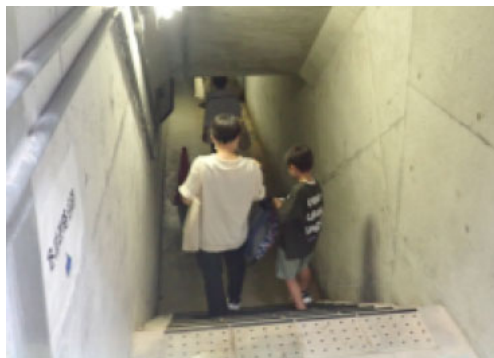
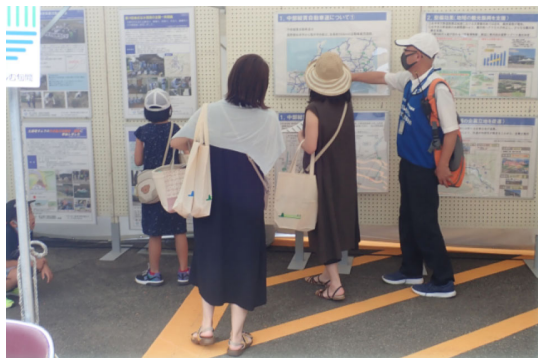


図 7.5-5 森と湖に親しむ旬間行事(パネル展示・冬期連絡通路見学)の様子

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所 HP】

(2) 九頭竜紅葉まつり

例年、九頭竜国民休養地で「九頭竜紅葉まつり」が開催されている。なお、新型コロナウイルスの流行により、令和2,3年は中止であったため、令和4年度は3年ぶりの開催となった。

「九頭竜紅葉まつり」では、九頭竜ダムの歴史や建設の契機となった災害を紹介するパネルの展示や、九頭竜ダムに流れ着いた流木の無償配布、地元名産品の販売や地域住民等によるイベントステージでのパフォーマンスが実施される。



図 7.5-6 九頭竜紅葉まつりの様子

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所 HP】



図 7.5-7 「ミズベリングin和泉」の様子

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所 HP】

## 7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

### 7.6.1 ダム湖利用実態の調査

ダム湖利用実態調査は、「河川水辺の国勢調査(ダム湖版)：国土交通省水管理・国土保全局河川環境課」により、平成3(1991)年度から3年～5年毎に実施しており、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査(利用者アンケート調査:直接ヒアリング、利用者カウント調査)を実施し、年間利用者数の推定を行うものである。

令和元年度の結果によれば、年間利用者数は約4万3千人と推計された。また、利用形態状況の年間推計値によると「散策」が最も多く、次いで「野外活動」「施設利用」となっている。過去の調査結果も踏まえると、概ね一貫してアウトドア的な利用が大半を占めている。

なお、平成3年度の調査の来場目的の設問は、「スポーツ」、「釣り」、「ボート」、「散策」及び「その他」であったが、平成6年度の調査からは、設問に「野外活動」と「施設利用」を追加している。

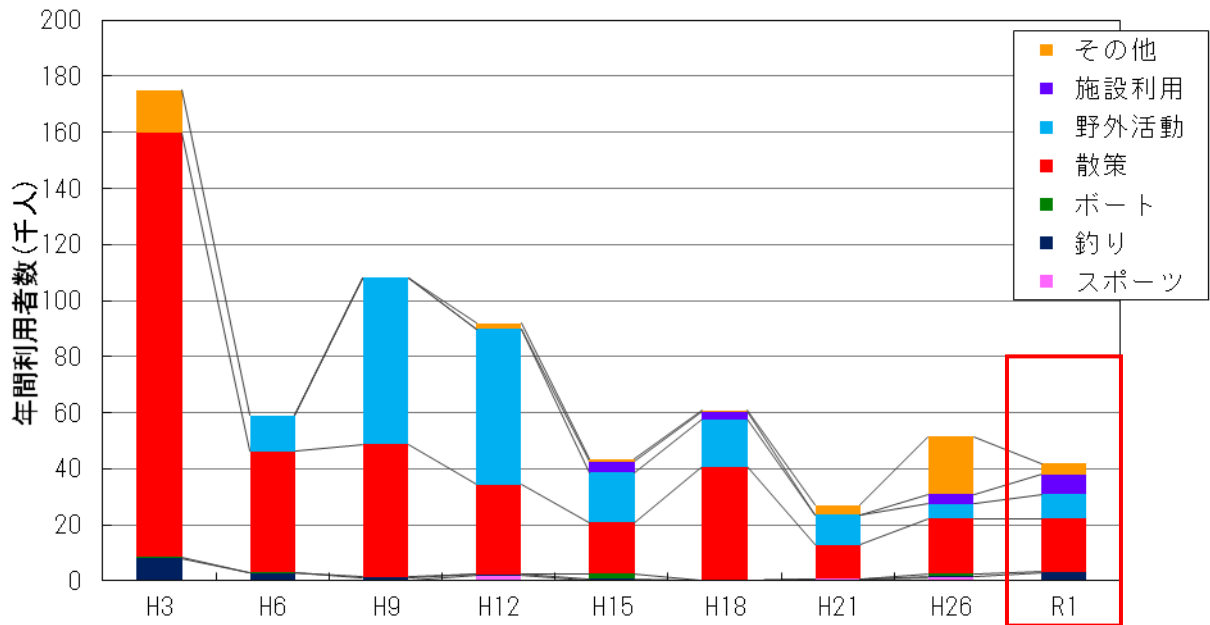


図 7.6-1 九頭竜ダム湖利用実態調査結果

【出典：河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査編) 平成3年度～令和元年度】

表 7.6-1 九頭竜ダム湖年間利用状況

(単位：千人)

	平成3年度	平成6年度	平成9年度	平成12年度	平成15年度	平成18年度	平成21年度	平成26年度	令和元年度
ダム	96.4 (55.1%)	34.7 (58.8%)	44.1 (40.9%)	31.4 (34.2%)	21.0 (48.4%)	27.5 (45.2%)	14.2 (52.0%)	19.4 (37.7%)	16.5 (38.5%)
湖面	20.0 (11.4%)	3.0 (5.1%)	1.3 (1.2%)	2.3 (2.5%)	2.6 (6.0%)	0.0 (0.0%)	0.9 (3.3%)	2.3 (4.5%)	4.3 (10.0%)
湖畔	58.7 (33.5%)	21.3 (36.1%)	62.5 (57.9%)	58.1 (63.3%)	19.8 (45.6%)	33.3 (54.8%)	12.2 (44.7%)	29.8 (57.9%)	22.1 (51.5%)
合計	175.0	59.0	107.9	91.8	43.4	60.8	27.3	51.5	42.9

【出典：河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査編) 平成3年度～令和元年度】

### 7.6.2 九頭竜ダム利用者の特性

平成 26 年度と令和元年度のダム湖利用実態調査時に行った利用者アンケート調査結果から、九頭竜ダム利用者の特性を整理した。

#### ■アンケートの回答者数

○平成 26 年度：282 人 ○令和元年度：70 人

#### (1) 利用者の属性

利用者層は、平成 26 年度は 40 代と 50 代、令和元年度は 60 代の利用が最も多い。また、令和元年度では 20 代と 30 代が減少し、概ね 40 代～70 歳以上の利用者層となっている。

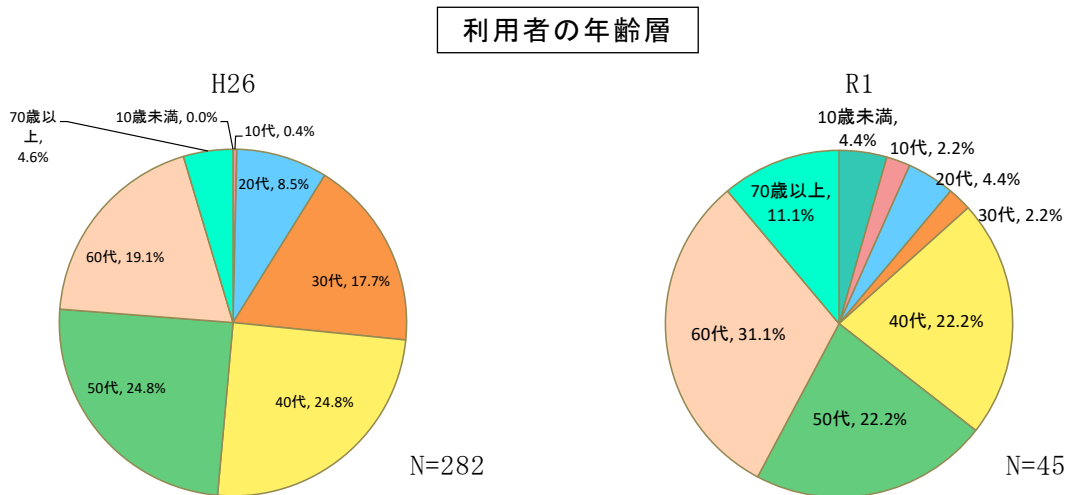


図 7.6.2-1 利用者の年齢層

#### (2) 利用者の居住地等

来訪者の居住地は、両年度で愛知県が最も多く、次いで福井県、岐阜県であり、近隣からの利用者が半分以上を占めている。なお、平成 26 年度に比べ令和元年度では、近隣以外からの来訪者が約 2 割増加している。

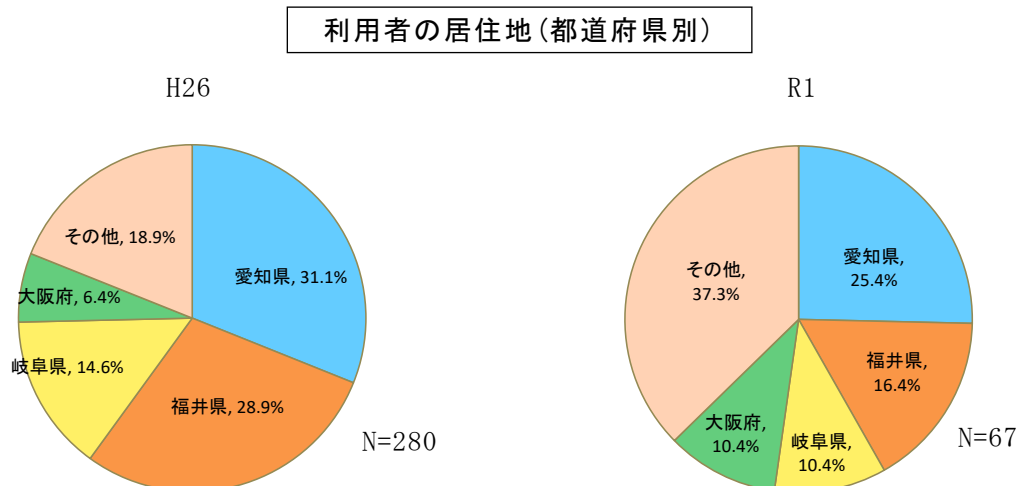


図 7.6.2-2 利用者の居住地(都道府県別)

(3) 来訪経験

九頭竜ダムを訪れた利用者のうち、平成 26 年度は約 6 割がリピーターであるのに対し、令和元年度は約 7 割の来訪者が初めて訪れている。

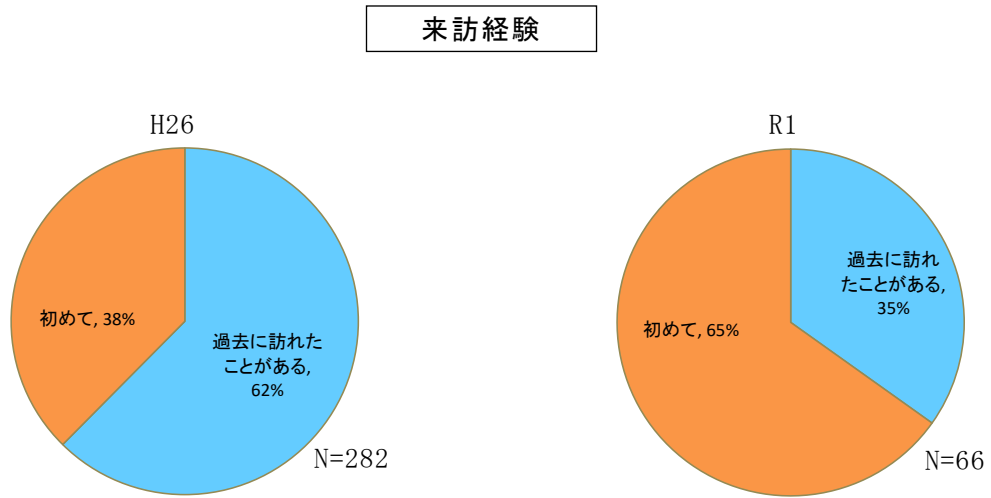


図 7.6.2-3 来訪目的

(4) 同伴者

同伴者は、両年度で家族が最も多く、約半分を占めており、次いで単独での利用者である。

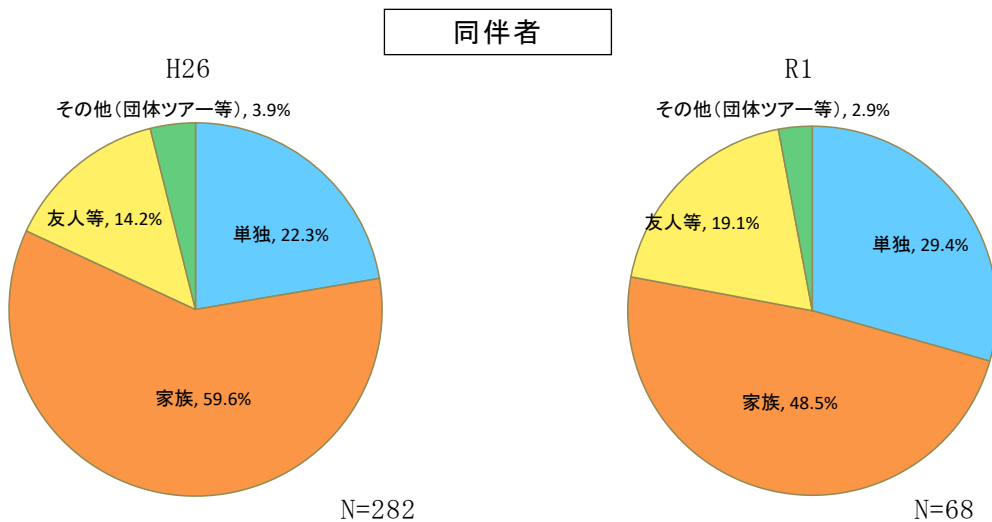


図 7.6.2-4 利用者の同伴者



(5) 来訪目的

九頭竜ダムを訪れた主な目的は、両年度で施設利用が多くなっている。また各年の来訪目的の内訳については、自然利用では「散策」が多く、施設利用では「ダム見学」が多い。

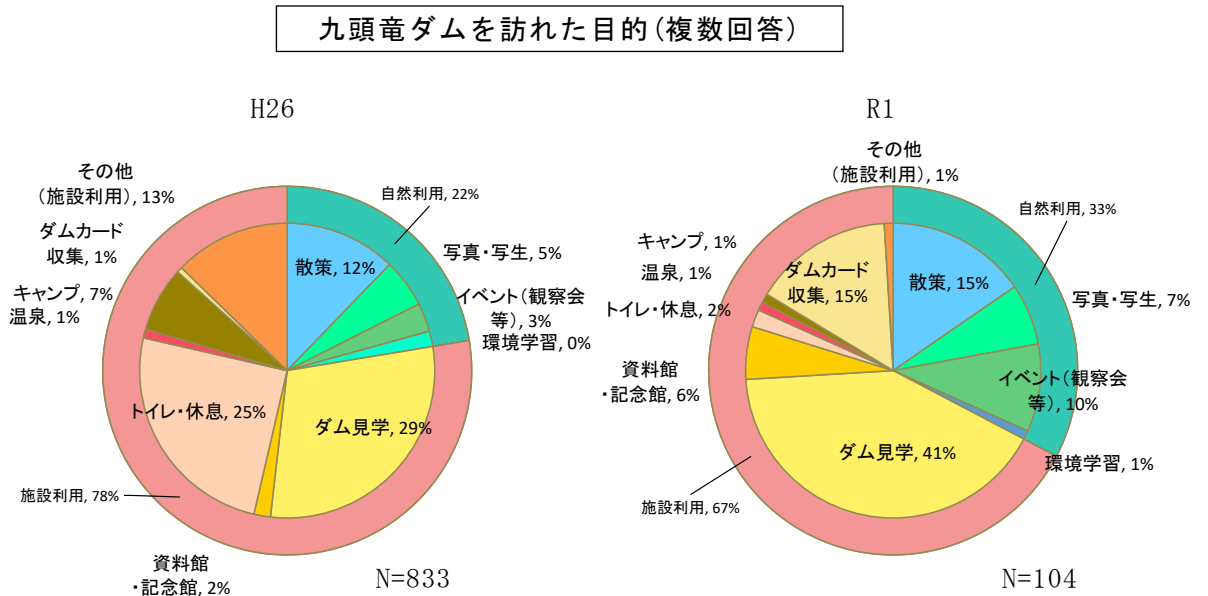


図 7.6.2-5 来訪目的

(6) 滞在時間

滞在時間は、両年度で1時間未満が半分以上を占め、次いで6時間以上の利用者が多く、同様の傾向である。

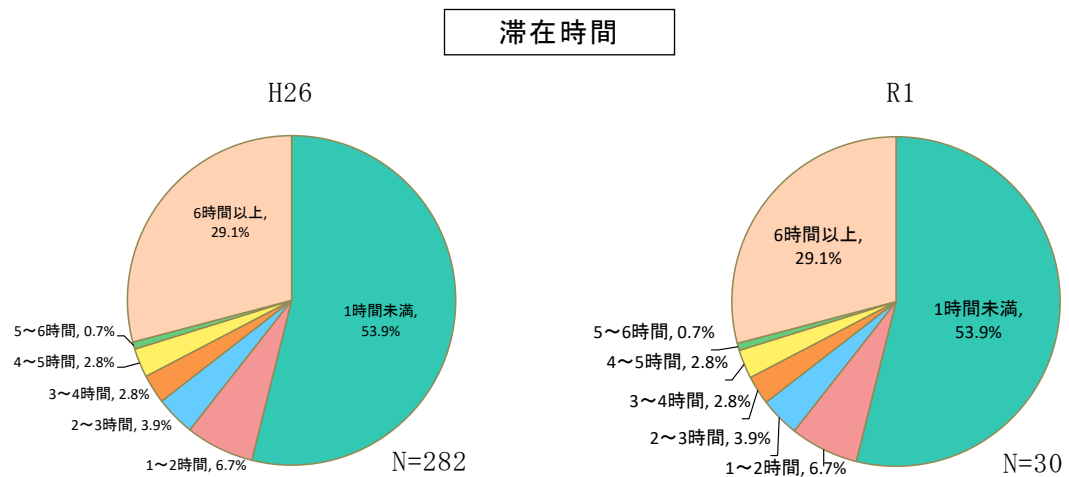


図 7.6.2-6 滞在時間

(7) 宿泊の有無

九頭竜ダムの利用者のうち、両年度で約6割以上が日帰り利用である。一方で、平成26年度と比べ令和元年度では、宿泊を伴う利用者が約2割増加している。

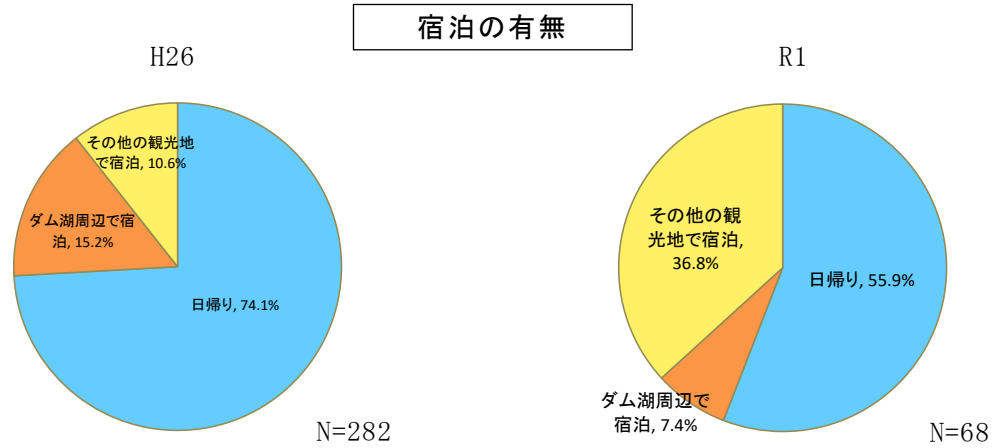


図 7.6.2-7 宿泊の有無

(8) 利用者の感想

九頭竜ダムを利用した人の感想は、両年度で「満足している」が最も多く、「まあ満足している」を合わせると全体の約9割を占めており、九頭竜ダムは高い評価を得ている。

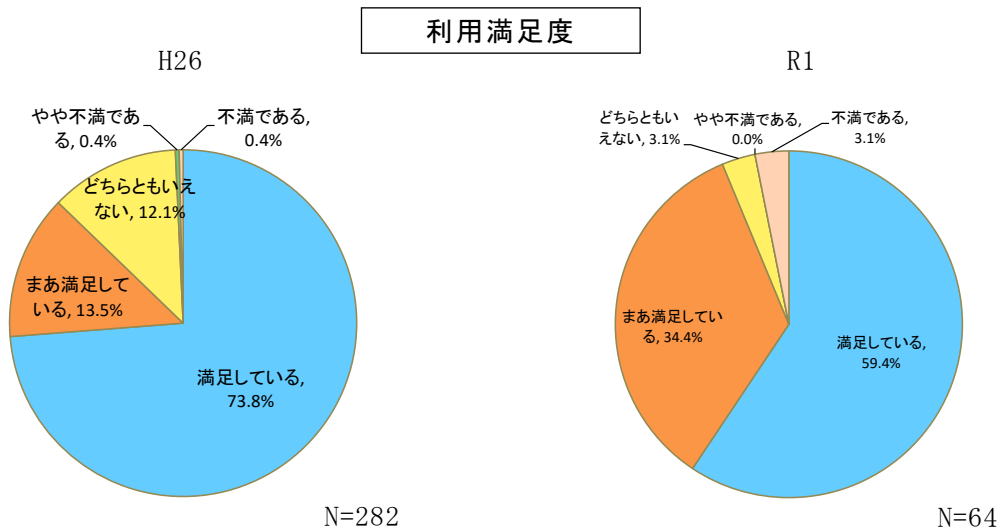


図 7.6.2-8 利用者の感想

## 7.7 まとめ

### まとめ【評価】

- 水源地域ビジョンの「森林」、「水」、「交流」の3つの柱をもとに、水源地域の持続的な活性化に向けた取り組みを実施している。
- 水源地域ビジョン推進委員会内に、「交流」に関する施策を推進する「水源地域交流推進協議会」を設置している。

### 今後の方針

- 水源地活性化のため、水源地域ビジョンに照らし合わせて、ビジョンに定められた取り組みを推進する。

## 7.8 文献リスト

「7. 水源地域動態」の章で使用した文献等を以下に示す。

表 7.8-1 使用した文献・資料リスト

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月	箇所
7-1	大野市勢要覧 ver. 2014	大野市	—	ダムの立地条件
7-2	福井河川国道事務所事業概要パンフレット	福井河川国道事務所	令和5年4月	交通アクセス
7-3	(一社)大野市観光協会「えちぜんおおの観光ガイド」	大野市	—	交通アクセス
7-4	国勢調査	総務省統計局	昭和35年～令和3年	人口・世帯数
7-5	経済センサス	総務省・経済産業省	昭和44年～令和2年	事業所数
7-6	福井県統計年鑑	福井県	昭和35年～令和3年	就業者数
7-7	九頭竜ダム水源地域ビジョン	大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所	平成17年3月	水源地域ビジョン
7-8	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン	大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所	平成18年2月	水源地域ビジョン
7-9	九頭竜川流域誌	九頭竜川水系治水百周年記念事業実行委員会	平成12年10月	ダム周辺環境整備事業
7-10	河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査)	九頭竜川ダム統合管理事務所	平成4年～令和3年	ダム湖利用実態調査